ユニとはただ一つの意味

ユニとは品質の最高を表わし、また材料や工程の一つ一つに類がないことを表わします。ユニは唯一つ最高の鉛筆です。

GH－6B17硬度 1ダース ¥600

三菱鉛筆



私の言葉

3人のよき協力者

田中丸善一郎
（長崎県協会会長）

華麗な山なみ、紺ぺきの海、石だたみの坂道、胸にクルスをつるし、黒いガウンのすそをひいた聖女。どこを漫歩してもエキゾチックな情緒と自然の景観にあふれる長崎。昭和44年の「第24回国体を長崎で…」という県民あげての誘致運動は見事実を結んだ。ライバル佐賀、鹿児島両県を押えて「長崎開催」が正式に決定した。これは7月6日の日本体育協会国体常任委員会で決定したものである。長崎県スポーツ界はもちろん、私たち長崎県ハンドボール協会にとってもこんなにうれしいことはない。それだけに責任の重大さをひしひしと身に感じます。この好機に長崎県スポーツ界は県民の理解と、スポーツ団体の積極的な動きとによって、これまで低調だったスポーツ水準が一段と向上し、一大飛躍をとげようとしている。



さて本県ハンドボール協会は、他の周辺地方と同様に指導者はもちろん若い経験者にとぼしく、協会設立もおくれていた。しかしその間全くハンドボールが行なわれていなかったわけではない。佐世保市の和田保健体育課長は日本ハンドボールの草分けとして、日体大在学中にドイツのヒットラー・ユーゲントチームとの国際試合の経験者であり、また長崎大学松村守氏は東京高師時代に選手として豊かな経験を持っている。松村氏は長崎大学に奉職していらい現在まで、教師のタマゴである学生の指導に当たっている。そのうえ幸いなことに県体育保健課長千田巌氏は、第5回愛知国体のとき愛知県体育保健課に在職しており、ハンドボール競技運営の担当者として活躍された。それ以後高嶋理事長はじめ協会役員とも深い関係があり、現在の愛知県に隆盛をもたらした一人である。このハンドボール3人男の出現により、おそまきながら昭和38年に協会が設立しわたけである。よき協力者が出たものである。

そして初代会長として私に就任の依頼があったわけである。私は早大在学中は柔道部だった関係で、同僚のハンドボール部の活躍を見ていた程度である。果たして自分に会長の務めができるかどうか迷ったが、関係者の熱意に動かされてお引き受けしたわけである。ことしになって国体誘致運動の盛り上がりから、ハンドボールに対する理解も高まり、県高体連も本年から正式種目として実施することになった。また中学校においてもその気運が高まり、これを機会に第8回全日本教職員選手権大会開催の運びとなったのである。九州各県の小袋、藤田、北川、中西、疋田の諸氏の惜しみないご指導に感謝している。

× × ×

ハンドボール「第24号目次」

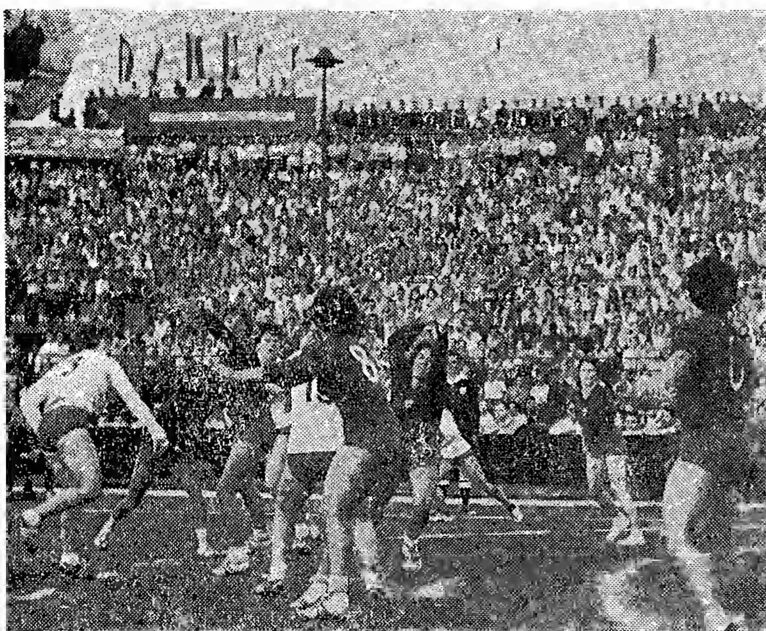
昭和40年7月号

〔表紙写真〕
全日本学生選手権大会決勝、芝浦工大一立大戦。近森（芝浦）のシュート。

日本チーム、チェコで2試合

女子世界選手権大会・2回戦

第3回女子7人制世界ハンドボール選手権大会の二回戦、日本対チェコスロバキアの試合はプラハ、東京で各1試合ずつ行なわれる予定だった。日本協会はチェコスロバキア・ハンドボール協会および国際ハンドボール連盟（IHF）に対し、「第1戦を9月東京で、第2戦を10月下旬プラハで行ないたい」むね正式に申し入れていたが、6月22日チェコスロバキア協会から「チェコスロバキア・チームの日本遠征は不可能である」と回答してきた。これによって日本対チェコスロバキア戦は2試合ともプラハで行なうことが正式に決まった。



1962年の第2回大会準決勝ルーマニア対チェコ戦（ブカレスト）

チェコ、日本遠征を断わる

チェコスロバキア協会からの回答は「世界選手権大会前の試合については全く考えていなかった。しかもチェコスロバキア・チームが日本へ遠征する計画も全然なかった。したがってチェコスロバキア協会は、IHFの規定どおり認められた時期にチェコスロバキア国内で日本対チェコスロバキアの2試合を受け入れる用意がある。このほか親善試合を計画している。この提案を日本協会が承諾してくれることを希望します」というもの。この結果、ハンドボール愛好者が希望していた日本での初めての世界選手権大会はお流れとなった。

日本協会はこのチェコスロバキア提案を受け入れることを認め、このむねチェコ協会、IHFに通告した。日本対チェコスロバキア戦の開催期日は近く常務理事会を開いて決め、合わせて代表選手の決定、合宿計画も決める。なお日本チームはチェコスロバキアで試合を行なったあと、西ドイツ、フランスに向かう。

高嶋理事長の話　日本協会としてはチェコスロバキア・ナショナル・チームをぜひ日本へ招いて、世界選手権大会をやりたかった。これは全国のハンドボール愛好者の希望だった。実現できなくて実に残念である。日本チームがチェコスロバキアへ遠征して2試合やることになったが、どうしてもチェコスロバキアを打ち破って西ドイツで開く準々決勝（ベスト8）に進出したい。そのためには実業団チームの各社長さんのご協力をお願いして強力なナショナル・チームを編成したい。

日本、参加を申し込む

第6回男子7人制世界選手権大会

1967年第6回男子7人制世界ハンドボール選手権大会は1月から3月までの間にスウェーデンで開かれる。参加申し込みしめ切りは6月30日なので日本協会は参加を申し込んだ。参加チームは16チームなので、日本はアジア大陸代表として予選を行なわず出場できる見通しである。

チーム編成急ぎたい

～各オーナーにお願いを～

対談

話す人 高嶋洌（日本協会理事長）

聞く人 鷲尾武治（共同通信社）

日本協会は7月7日緊急常務理事会を開き、第3回女子7人制世界選手権大会派遣の日本ナショナル・チームの構成について協議した。その結果、先に決定した全国理事会案を修正し、選手の構成などについての一切を高嶋理事長に一任した。そこで高嶋理事長にその構想をきいてみた。

＝7月20日・日本協会で＝

選手選考は私に一任

—女子世界選手権の代表選手は、技術部案によると32人を選抜して強化合宿し、このなかから16人を代表選手にすることになっていたが…。

高嶋　各チームにご推薦を願ったけれど、実際には定員に達しなかった。したがって7月7日常務理事会を開いて善後策を協議した結果、理事長一任ということになりました。

—理事長一任ということは…

高嶋　常務理事会の空気では、世界選手権の日本代表になれるチームもしくは選手というものは実業団の五社ということになる。この五社とは大崎電気、大洋デパート、レナウン、田村紡、愛知紡らのことです。この五社の社長に直接お会いしてご意見をうかがうと同時にご協力をお願いしたいと思っています。これは私の仕事です。

—強化合宿をやらなければならないので、早急に社長さんたちと会わねばいけませんね。

高嶋　そのとおりです。9日に東京で田村紡の田村社長にお会いし、貴重なご意見をうかがいました。このご意見は「チームを持っている社長さんがたのご意見を代表している」ように考えられます。このご意見を基にして至急他の四社の社長さんにお会いしてご協力を求める考えでおります。

—田村社長にお会いできたことは、いい方向への足がかりになりそうですね。

高嶋　はい。そのとおりです。

少数精鋭主義も

— 実業団チームの社長さんたちが選手を出してくれた場合、何人ぐらいで合宿をやるのですか。

高嶋　理想なのはIHF（国際ハンドボール連盟）が認める16人がよいと思う。しかし経費その他のことを考えれば少数精鋭主義をとり、12～14人ぐらいでもよいと思います。

—ところで強化合宿はいつ、どこでやるのですか。

高嶋　実業団の社長さんのご協力を得しだいすぐやりたいと思っている。場所はオリンピックの強化練習の施設（検見川、伊豆大島、長野県菅平高原など）を使うのも一つの方法だと思う。しかし連絡など便宜上のことを考えれば東京に落ち着くのではないか。合宿費は極力協会でねん出する考えでいる。

—最終的に日本ナショナル・チームを編成するのはいつごろになるか。

高嶋　少しでも早くしたいと考えているが、どんなにおそくとも8月末までにはしたい。

—チェコスロバキアとの試合はいつごろになるか。

高嶋　IHFの規約では10月30日までになっているが、私の構想では10月20日ごろがよいと思う。

—そうすると羽田出発は…

高嶋　欲をいえば1週前にしたいが…。

チェコは強い

—もしチェコスロバキアに負けてベスト8にはいらなかったときは…

高嶋　チェコスロバキアで親善試合を2～3試合行ない、このあと西ドイツにはいって世界選手権大会を見学する。その前後に西ドイツで1、2回戦出場チームと対抗試合を行なう予定でいる。その後フランスに立ち寄り、5—6試合やることを計画している。

—それにしてもチェコスロバキア・チームが来日できないのは残念ですね。

高嶋　ほんとうに残念です。日本のファンの前で初めての女子の国際試合をやりたかった。そして勝ちたかった。

—掛け値のないところ、チェコスロバキアに勝てないか。

高嶋　正直にいって現在の時点では勝つことは非常にむずかしい。しかしむずかしいといって手をこまねいていては進歩がない。スポーツというものは強いチームと対戦して努力することに意義があると思う。

—最後に強化合宿の方針を…

高嶋　せめて8日間を3回、計24日ぐらいはやりたい。スタミナの養成と試合運行の技術をマスターしたい。それにディフェンスの強化は男女を問わず必要である。

—大いにがんばってください。

高嶋　ありがとうございます。



第24回国体は長崎県

日本体育協会評議員会は7月9日東京代々木の岸記念体育館で開き、第22回から第24回までの国体開催県を正式に決めた。（カッコ内はハンドボール開催地）▽第22回埼玉県（浦和市）▽第23回福井県（高浜市）▽第24回長崎県（長崎市）

―ヨーロッパ杯選手権大会―

女子はコペンハーゲン優勝

男子ブカレストはザグレブを破る

ヨーロッパ杯選手権は各国が参加して行なわれた男子ヨーロッパ杯は常勝ディナモ・ブカレストが獲得した。ディナモ・ブカレストはルーマニア・ナショナルチームのメンバーをそろえ、破竹の進撃で優勝した。準決勝に勝ち残ったのはグラスホッパーズ・チューリッヒ(スイス)、アジャックス・コペンハーゲン(デンマーク)、メドベスク・ザグレブ(ユーゴ)、ディナモ・ブカレスト(ルーマニア)の4チーム。

ヨーロッパ杯選手権の準決勝は互いに相手のチームの本拠地に乗り込み、2試合を行なった。(1)勝数、(2)得失点差の大きいもの、(3)得点の多いもの、(4)抽選の順で順位を決めるトーナメント方式。ザグレブはこの準決勝進出にさいしてソ連のブレベストニクとの間で1勝1敗。得失点差、得点も同じで抽選というあぶない橋を渡って準決勝に進出した。ザグレブは先にベルリンで行なわれた四市対抗選手権で優勝している。準決勝はまずザグレブがデンマークに乗り込むことから始まった。このコペンハーゲンとの試合は20―24で敗れた。続いて行なわれたベルグラードでの試合でコペンハーゲンを21―11の大差で破り1勝1敗。しかし得点差でザグレブが決勝に進出した。

幸運なブカレスト

他の準決勝はグラスホッパーズ・チューリッヒとディナモ・ブカレストの間で行なわれた。チューリッヒはスイスのNO1.チーム。国際連盟技術委員長のエミール・ホルル氏もときおり顔を見せて練習ぶり、試合ぶりを見るほどの期待のチーム。ブカレストはルーマニア・ナショナルチームのメンバーで編成されている。試合はまずブカレストがチューリッヒに乗り込んだ。この試合でブカレストは19―11の大差でチューリッヒを破った、第2戦はチューリッヒがブカレストに乗り込むことになっていた。しかしルーマニア政府の高官急死という突発事件で試合は延期せざるを得なくなった。試合を延期することは、選手の多くが勤めを持っているチューリーッヒにとっては大きな障害となった。その結果、国際連盟はやむを得ないものと認め、チューリッヒ・チームの同意を得てブカレストの決勝進出を認めた。このようにして決勝戦はブカレストとザグレブの間で行われることになった。

決勝戦はフランス協会の好意的な申し入れでリヨン市で行なわれた。この試合には国際連盟副会長プチ・モンゴベール氏、会計担当理事マックス・リンケンバーガー氏も観戦し、試合の成り行きを見守った。試合はブカレストが前半8―5とリード、後半ザグレブの追撃を押えて13―11で優勝した。

コペンハーゲンの得点21

女子のヨーロッパ杯も多くのチームが参加して行なわれ、デンマークのHG・コペンハーゲンが優勝した。準決勝進出はロコモティブ・ザグレブ(ユーゴ)、スパルタカス・ブダペスト(ハンガリー)、スウィフト・ロエルモン、コペンハーゲン(デンマーク)の4チーム。準決勝、決勝とも相手の本拠地に乗り込んで2試合行なう方式が採用された。勝敗の決め方は(1)勝数、(2)得点差、(3)得点の多いもの、(4)抽選の方式。

◇準決勝

▽ベオグラード

スパルタカス・ブダペスト 7（5―4、2―2）6 ロコモティブ・ザグレブ

▽ブダペスト

スパルタカス・ブダペスト 7（3―3、4―1）4 ロコモティブ・ザグレブ

ブダペストは2勝して決勝進出。

▽ロエルモン

HG・コペンハーゲン 16（7―3、9―5）8 スウィフト・ロエルモン

▽コペンハーゲン

HG・コペンハーゲン 12（3―1、9―2）3 スウィフト・ロエルモン

コペンハーゲンは2勝して決勝進出。

◇決勝

▽コペンハーゲン

HG・コペンハーゲン 14―6 スパルタカス・ブダペスト

▽タタ

スパルタカス・ブダペスト 10―7 HG・コペンハーゲン

1勝1敗となったが、得点合計21―16となり、コペンハーゲンが優勝した。

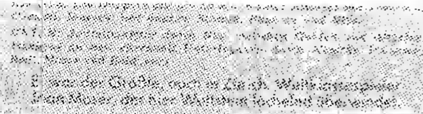
韓国遠征は延期

8月に日本高校チームが韓国に遠征する予定だったが、つごうにより延期となった。

次頁写真はディナモ・ブカレストの戦いぶり(西ドイツ週刊誌から)









DINAMO BUCURESTI

uf dem Wege zum Europapokal
Grasshoppers Zürich unterliegen im Heimspiel
it 11:19 (5:10)











—西ドイツ選手権大会（西ドイツ週間誌らか…）—

新鋭リバクーゼン（女子）初優勝

男子はギョッピンゲンが7回目

西ドイツの国内選手権大会優勝チームは男女とも決定した。男子はケンパ氏の率いるF・A・ギョッピンゲン、女子はバイエル・04・リバクーゼンが優勝した。ギョッピンゲンは7回目、リバクーゼンは初優勝である。本誌22号に書いたように各地での優勝チームが決まると、選手権大会に備えてものすごく意欲をもやす。

〔男子〕

勝ち残ったのはAグループはG・W・ダンケルセン、S・G・ロイターシャウゼン、ポリツァイ・SV・ベルリン、TUS・ノインキルヘン、BグループはF・A・ギョッピンゲン、VFL・グンメルスバッハ、ベルリン・SV92、THW・キールの8チーム。各グループともリーグ戦を行なった。

AグループはG・W・ダンケルセンが3勝、S・G・ロイターシャウゼン2勝1敗、ポリツァイ・SV・ベルリン1勝2敗、TUS・ノインキルヘンが4敗し、ダンケルセンが決勝に進んだ。BグループはF・A・ギョッピンゲンが圧倒的な強さを見せて3勝、VFL・グンメルスバッハが1勝1敗1引き分け、ベルリンSV92が1勝2敗、THW・キールは2敗1引き分けとなり、F・A・ギョッピンゲンが決勝に駒を進めた。これらのリーグ戦はいずれも少差で勝負が決まっている。

▽Aグループ

ダンケルセン 22—21 ノインキルヘン

ロイターシャウゼン 23—12 SVベルリン



男子ダンケルセン対ギョッピンゲン戦から

Vom Endspiel der Deutschen Meisterschaft der Frauen

Hallentitel nach Leverkusen

Aufnahmen: Nordbild (3), Jürgen H. Klebe (3)
Zeichnung: Wolfgang Stroppe





ダンケルセン	33—18	SVベルリン
ロイターシャウゼン	17—15	ノインキルヘン
ダンケルセン	14—13	ロイターシャウゼン
SVベルリン	20—14	ノインキルヘン
▽Bグループ		
ギョッピンゲン	10—8	キール
グンメルスバッハ	16—13	ベルリンSV92
ギョッピンゲン	13—8	ベルリンSV92
グンメルスバッハ	13—13	キール
ギョッピンゲン	18—13	グンメルスバッハ
ベルリンSV92	13—7	キール
▽決勝		
ギョッピンゲン	13（9—5 4—7）12	ダンケルセン

以上のような成績でAグループはダンケルセン、Bグループはギョッピンゲンが決勝戦に進んだ。

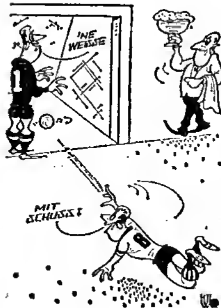
決勝は3月14日午後4時からシュツットガルトで行なわれた。試合は非常な接戦で7度も同点となるというシーソーゲーム。最初の得点はギョッピンゲンがあげたが以後リードできず前半4—7とダンケルセンがリードした。ギョッピンゲンは後半7分7—7と追いついたがすぐ離された。追いつきのくり返しをし24分やっと11—10とリードを奪った。しかし28分に11—11となり29分に再びバイスのシュートで12—11。このあとすぐダンケルセンもこの日2本の7Mスローを決めていスパヌッスに7Mを決められ12—12。しかしタイムアップ5秒前にシュマウダーのシュートがきれいに決まり、ギョッピンゲンが13—12で優勝した。

〔女子〕

女子は南西ドイツ・チャンピオンのSC・ズードベスト・ルドビクスハッフェン、西ドイツ・チャンピオンSV・バイエル・04・リバクーゼン、北ドイツ・チャンピオンのアイムスビョッテラー・TV・ハンブルグ、ベルリンチャンピオンのSSC・ズードウェスト、南ドイツチャンピオンのFC・ニュールンベルグが決勝進出を争つた。この結果SV・バイエル・04・リバクーゼン対アイムスビョッテラー・TV・ハンブルグの対戦となった。

試合は3月21日に行なわれた。この試合のレフェリーはベルリンのジンガー氏。同氏のジャッジはきびしく多くの7mスローをとった。これを確実に決めるかどうかが大きなポイントとなった。すべり出しから好調だったリバクーゼンは前半にギゼラ・メッサーのバックハンド・シュート7Mスローなどで4—3とリードを奪った。後半もメッサーの2本の7Mスローなどで3点を追加した。守ってはアイムスビョッテルの攻撃を完全に押え、ついに後半は1点も与えなかった。

このように男女とも昨年の優勝チームは決勝戦に姿を見せず消えてしまった。それに代わって男子は常連ケンパ氏率いるギョッピンゲンが、女子は新鋭リバクーゼンが王座についた。





もてるポロシャツ
もちたいポロシャツ
レナウンポロシャツ
ボンネル
RENOWN
レナウン
レナウン工業株式会社
レナウン商事株式会社
東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

—ベルギー「体育レビュー」誌から—

人気のある審判員の能力テスト

ジャン・ドレザル



ジャン・ドレザル

〔筆者紹介〕 7人制ハンドボール競技起草者の1人。国際公認審判員として過去4回の世界選権大会で28試合審判をつとめた。1961年世界選手権大会優秀審判賞を受賞。審判関係著書多数。チェコ生れ。

はじめに

私たちの時代になって7人制ハンドボールは大きな発展をとげた。それは長い伝統を有する国だけでなく、新しく国際ハンドボール連盟に加盟してきた若い国においても見られることである。この発展には国際連盟競技規則の精神にしたがって試合を進める審判員の大きな努力がある。国際連盟競技委員会のホルル委員長がこの間の国際審判員講習会で『審判員は競技規則で禁じられている荒いプレーを見のがしてはいけない。またいかなる妥協もなく断固として競技規則の精神にしたがった試合を運営するようしなければならない』と表明した。だがいままではこの認識が欠けている場合が多いので特に取り上げた。選手が守備側の危険なプレーを心配することなく試合を行ない、じゅうぶん自分の持っている技術とスピードを発揮しプレーに喜びを感ずるようにならなければならない。またそうすることが観衆に興味ある美しいショーを提供することになる。

審判員の能力テスト

審判員が試合をじゅうぶんに運営して行くためには精神的および肉体的面でじゅうぶん準備された状態でなければならない。

毎年チェコで審判員に義務として能力測定をやらせているのはそのためである。この測定はそれぞれ最低限度が定められている3種目について行なわれる。この最低成績に達しない審判員は大会に出場できない。必要条件とされている最低成績は次のとおりである。

（1） ダッシュ 25メートルを4回（間隔10秒以外）優＝16秒8、良＝18秒4、最低＝20秒4

（2） ダッシュ 15メートルを6回（間隔なし）優＝21秒、良＝22秒3、最低24秒2

（3） 後進 10メートルを2回 優＝5秒、良＝5秒6、最低＝6秒2

（4） 地方によってはハードル（40～50メートル）を適用している。その他審判員としての適性。

この能力測定はすべての審判員養成機関の必須科目ともされ、かなり人気がある。しかし特に気をつけてからだの調子をコントロールしているのは年を取った審判員である。

審判員の動き方

すぐれた審判員になるためには（1）心身コンディションが良好であること（2）正確に競技規則に通じていること（3）さらにコートでの適切な動き方が必要である。この動き方に関してはすべての審判員に適用される統一された競技規則はない。しかしいくつかの原則を示すことはできる。

まず審判員は交代者ベンチと反対側のサイドラインに沿って移動しなければならない。これは選手の交代を完全に監視するためである。また審判員はつねに攻撃陣のうしろへ移動していることが必要である。これは両チームの選手の大分部を自己の視野に入れて監視するためである。早い動作でスタートしていればエリア・ラインからボールを持った選手のプレーだけでなくボールを持たない選手の争いも見ることができる。もし審判員がコートの中央部に止まり、そこからプレーを観察するならそれは非常に便利な位置をとったことになる。しかし同時に非常に悪い位置をとったことでもある。相手チームの突発的反撃にさいしても位置を敏速に移し、エリア・ラインがよく見える位置までくっついて行かねばならない。しかもこの場合攻撃側選手の最後列からついて行くのでは攻撃選手の反則をじゅうぶん見ることができない。

審判員がコートの一方側半分しか移動しない場合あるいは一方のゴールラインの後方とかフリースロー・ラインのあたりに止まる場合にも欠陥が目につく。一方のゴールライン、フリースロー・ラインのあたりに止まる場合エリア・ラインへの侵入はよく観察できる。しかし守備チームが突然ボールを得て速攻をかけたとき追いつくことはほとんど不可能である。またこのような位置にあるときシュートのボールまたはカットされたボールに当たる危険がある。コートの一方側半分しか移動しない場合も自分のいる側でのプレーしか観察できない。反対側陣内にプレーが移ったとき、ある選手を審判員の目からおおいかくすことができ

プレーを正しく観察できなくなることが出てくる。

競技規則解釈上の問題点

（1）規則5条、6条、関係

規則を解釈するにあたって最も論議のあるのは第5条「ボールの扱い方」と第6条「相手に対する動作」に関してである。しばしば解釈が対立するのは「バックシュート」についてである。このシュートを行なうとき、シュートする選手はまず相手に背中を向ける。次の転回のとき、身体または腕で相手を押すのでなければ反則ではない。したがってこの方法でシュートを行なう選手と守備の選手の間の最少限距離を論ずるのはおかしい。

規則6条3項は相手の進路を身体で阻止することを認めている。またボールを持たない選手の進路を阻止することもできる（マンツーマン・ディフェンス）。しかしここで審判員はマンツーマンを行なっている選手が、規則の認めた方法を用いているかそうでないかに大きな注意を払わねばならない。審判員にとってコートの奥深くつまり、攻撃選手と守備選手が比較的遠くにいる場合が多いので判断はしばしば困難になる。しかしながら審判員はすべての選手を自分の視野は収めておくべきである。相手をつかまえたり押したりすることは認められない。いかなる場合でも審判員は技術のすぐれた守備選手あるいはバックシュートをする選手が行なうこの種の仮装を排除するべきである。

（2）危険なプレー

競技規則では審判員は危険なプレーに対して反則を課さねばならないと明確に定められている。危険なプレーが行なわれたあとでフリースロー（または7MT）を審判員が命ずるだけでなく反対に危険なプレーが予測されるとき直ちに反則を適用すべきであることを強調したい。

さらにゴールキーパーが攻撃選手に対抗してコート上に出て行った場合、あるいはエリア・ラインからジャンプしてシュートしている選手に対するプレーの場合とくにこの点を強調したい。というのはハンドボールで最も重い傷害が発生するのはこれらの場合である。ゴールキーパーが危険な態度で（ヒジをあげる。相手をたたこうとしている。攻撃選手を手で阻止しようとすることなど）エリア・ラインから出て行くのを審判員が認めた場合直ちに注意しなければならない。注意したあとさらにそのような行為があれば退場を命じなければならない。同様に守備選手の一切の危険なプレー、たとえば疾走中の攻撃選手に向かって急速に接近したり、シュート選手の手や顔をたたいたりしたときは直ちに反則をとらねばならない。また攻撃選手についても守備選手に向かって落下する危険なジャンプシュートや守備選手の非常に近くから頭あるいは胸を目がけてのシュート、シュート後にシューターの手が守備選手をたたくなどの行為がよくある。いずれにしても審判員が選手のこれら行為を最初に見たとき直ちにそれに対応する措置をとること。そうすれば試合は事故がなく進められる。

（3）フリースロー

フリースローは攻撃しているチームにとって利益はない。『競技規則のこの条項改正はした方が適当である』ということがよく言われる。事実多くのチームはフリースローを有利に利用していることが非常に少ない。しかしまだ一般化してないが、堅い守備に対し容易に得点するためにはまずフリースローのじゅうぶんな利用から出発するべきであるということがいえる。

フリースローを行なうとき片足の一部は常に地面についていなければならない。しかし他の足を持ち上げ再び地面におろすことは認められる。右または左に一歩踏み出すことにより、シュートのためのスペースが得られるのにもかかわらずフリースローをシュートに使うことが少ない。この場合、審判員は左足が（右手でシュートする選手の場合）絶えず地面についているかどうか観察しなければならない。これはフリースローを行なう多くの方法の一つでしかないが、念のため。

規則に書かれてある守備チーム選手のとらねばならない3メートルの距離とは、フリースローを行なう選手の手からボールが離れるときまで観察されていなければならない距離である。なお審判員がフリースロー実施のさい、選手の行動を妨げないよう正しい審判位置を取らねばならないことを強調しておく。

（4）7MT規則第14条

7MT実施のときもまた審判員は選手が正しい位置を占めるまではホイッスルを吹かない。7MTを実施する選手が7メートルラインのうしろに位置し、ゴールキーパーが7メートルラインから少なくとも3メートル離れたエリアーライン内に位置することを意味する。守備チーム選手はフリースロー・ラインのうしろで、かつ7MT実施選手から3メートル以上離れてなければならない。また攻撃チーム選手もフリースロー・ラインのうしろにいなければならい。7MTのホイッスルが吹かれたあと、監督が選手交代を行なわせた場合、審判員は交代が完了するまで実施のホイッスルを吹いてはい

けない。この戦略上の交代のため失われた試合時間は、そのハーフタイムの時間に加えられねばならない。

（5）競技の遅延

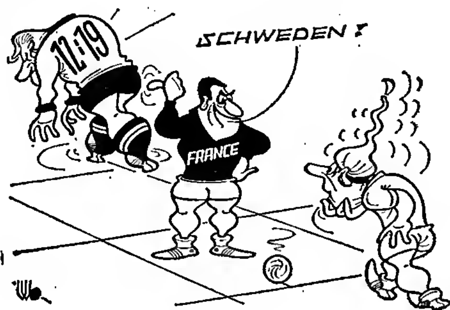
審判に関する最も大きな問題点は「故意による競技の遅延」である。競技規則のこの条項（十七の六）は1962年9月の国際連盟総会(スペイン)で改正が承認された。しかし新競技規則でも残った「競技の精神に反する競技の遅延」という語句に関する従来からの解釈は、なんら修正を受けなかった。国際連盟の競技委員会は「2回目の反則で残り試合時間の全部にわたり、退場させるという非常にきびしいこの条項を緩和するよう」にとの審判員の申入れを承認した。このきびしさのため審判員が本条項を今まで厳格に適用しない結果となっていたからである。

「競技を遅延させている」ということを審判員はいつ決定するのか。規則では何分でもつて競技の遅延があったとするか定めてない。というのは技術的にも戦術的にも、高度で完全なチームと低いレベルのチームの間では、攻撃持続時間に大きな差があるという理由があるからである。しかし審判員が観察し、監督が知ってなければならないいくつかの原則はある。それはハンドボールがチーム競技であり、ボールを相手ボールに送り込むことを目的とするものであるという根本的性格である。この得点しようとする努力こそ選手が目的とすべきものであり、審判員もその点を観察しなければならない。もしあるチームが競技に対する態度を交え、自分の支配下にあるボールをいろいろのコンビネーションによって保持することしか行なわないなら、審判員は競技遅延としてホイッスルを吹かねばならない。というのはシュートをする可能性に向かって努力してないからである。得点しようとするこの努力は、選手の退場によってチームの力が弱くなっているときでも明らかでなければならない。この場合でも別に罰則が軽減される決まりはないから競技遅延は許されない。審判員は故意による競技遅延をいかなる妥協もなく、制裁しなければならない。

ここに故意による競技遅延の例をいくつかあげよう。最もよく行なわれる方法＝攻撃選手が相手守備陣の空いている場所へ進み、その位置に停止してボールをタライ回し、あるいは凍結する方法である。これは最も大きな反則である。相手にパスを簡単にカットされないし、また故意に競技を遅延させていることが明白である。また自陣内でゆっくりパスの繰り返したり、自陣ゴールへ向かって長時間にわたりドリブルしたり、相手ゴールと反対側コーナーでのパスの繰り返しなどがみられる。競技遅延に対する罰則として、最初の違反のとき、フリースローのホイッスルを吹き、手を上げる。上げられた手は競技遅延により課せられるチームに対する注意を意味する。2度目の違反のとき、審判員は2分間退場を命じなければならない。3度目以降の違反のときは、そのつど5分間退場を命じなければならない。（規則第6条の荒いプレーに関する違反の場合のように残り時間全部の退場でない）。

（6）結び

審判員の責任は単に試合を運行するだけでなく、競技水準の向上に寄与することにもある。選手がコート上で戦っているとはいうが、この戦いには守られねばならぬ厳格な規則があると言わねばならぬ。完全に審判された試合において、初めて選手は公正なスポーツマンとして競技の精神にしたがい、自己の精神的、肉体能力を発揮することができる。ハンドボールを愛好する選手、監督、審判員、指導員などすべてが協力して、選手がプレーに喜びを持ち、技術と熱情が反スポーツ的行為に打ち勝ちうるという意味における戦い―対戦にするよう努力したい。そうすることによってのみハンドボールが青年男女の健康と体育素質の向上に役立つものである。



全日本総合選手権大会展望

2連勝ねらう大崎電気(男子) 女子は大洋—田村紡の争いか

杉山茂

第17回全日本総合選手権大会は8月22日から5日間、大分市鶴崎高球技場で行なわれる。全日本総合選手権はこの大会と冬の室内の二つあるが、協会が室内の方に重点を置きたいとしているにもかかわらず、選手たちはむしろこの大会への執着が強い。20年近い〃大会の伝統〃がそうさせるのか。それとも炎天下での熱戦にスポーツマンとしての喜びを見つけるだろうか。ともあれ、シーズン前半のメーンエベントの話題を探ってみよう。

大会の沿革

別表でもわかるようにこの大会が始まったのは昭和25年1月。男子は一昨年から、女子は昭和32年(第9回)から7人制である。戦前は4回の「全日本選手権」が開かれ、第1回は協会創立(昭和13和2月)に先んじて昭和12年に行なわれている。男子は4年前から予選制が採用されるようになり、それ以前はオープン(自由参加)。競技人口の拡充と地方球界の発展のために、このオープン制は効果的でそのねらいは当たったようだ。なお、九州でこの大会が開かれるのは第11回(昭34・水俣市)いらい6年ぶり2回目。

出場チームの話題

男子は予選制がようやく地に着いた感じ。予選敗者を本大会に〃推薦〃出場させるような失態もなくなった。今年の予選で最大の話題は名門桜丘会(愛知)が東海予選で敗れ、10年連続11回目の出場をはばまれたことだろう。このほか清商ク(静岡)明石ク(兵庫)、法友ク(東京)、足利球友会(栃木)なども今年は顔を見せない。

この大会に実業団が初めて顔を見せたのは第8回大会(昭33・下関)の住友化学菊本(愛媛)、宇部曹達(山口)の二チーム。それ以後住友化学菊本が連続出場しているのをはじめ大会ごとに出場チームが増えた。今年は全日本実業団連盟に推薦権(4チーム)が与えられたこともあって、昨年の7チームを上回る〃史上最高〃はまず間違いなさそうだ。むかしはクラブと学生の対決が大会の焦点だったが、いまやクラブに代わって実業団がその位置についたといえよう。

男子の展望

さて注目の優勝争いだが、トップグループはやはり協会推薦の大崎電気(埼玉)、全立大(東京)、日体大ク(東京)芝浦工大(東京)、同志社大(京都)の5チームであろう。

2連勝3回目の優勝をねらう大崎電気は主力9人が中国遠征(4月)に参加したのでもわかるように豪華な陣容である。エース竹野はひところの動きがないといわれながら、中国遠征で8試合39点をたたき出し健在だ。井上、北村、それに西村(法大)の加入で得点力は昨年よりむしろ上回る。GK福本も相変らず元気。攻守の安定感は参加チーム随一だ。中国から帰国後、試合らしい試合をしていないが、巧者ぞろいだけにこれもあまり苦になるまい。

〃打倒大崎〃に自信を持つ全立大は現役の木野が進境いちじるしく、学生界の代表的選手に成長し、藤城、北村、林、新人東(熊本市商)らによる速攻は若さと力にあふれている。GK尾形も堅い。カギは若手OBの安達、中根、江名にかかっている。彼らが定評どおりに動けば大崎との対決は予断を許せない。

学生界の代表芝浦工大と同大はスケールという点で大崎、全立大に一歩をゆずるが、スピードでは両者をしのごう。芝浦は近藤—近森のコンビを主力に関根、吉金、山田が得点源。同大は飯田、佐藤のほか稲葉、斎藤、林らがうまいプレーで得点をかせぐ。全日本学生選手権を試験で棄権したため、満を持しての登場だけに関東勢は気を許せない。

日体大クは最近6年間、タイトルを握れず「今年こそは…」というその闘志は見のがせない。青木とGK島崎が大阪イーグルスに移ったのは痛いが、神谷葭、中釜らの現役の若さと若手のOB試合運びのうまさかとけ合えば、優勝を

ねらう力はある。

この5チームの一角をくずすチームがあるとすれば教大、千代田印刷機製造(以上東京)、宗形製作所(大阪)、それに異色の大阪イーグルスだろう。久しぶりに充実した布陣の教大は北井、植田、松田のトリオによる攻撃力が看板。実業団の代表格千代田と宗形は今シーズン多くの有力選手を補強し、上位進出をめざしている。前記5強に序盤戦で当たるようだと波乱が起きるだろう。ともに初出場だが、この2チームの活躍は今大会の一つの見どころである。このほか学連から選出の京大、関大、茨城大、慶大それに予選から勝ち進んできた日体大らが注目される。特に関西春の優勝校京大や「一発屋」タイプの関大はおもしろい存在。また、東海予選で波乱を呼んだ常盤工業(岐阜)、本田技研（三重)、のぼり坂の日本鋼鋼（神奈川)、岡野バルブ(福岡）ら新進実業団がどこまで進出するかも話題だ。

実業団、学生にはさまつて見落とすことのできないのは教員界のナンバーワン大阪イーグルス。この大会には4年ぶり2回目の出場だが、その実力は全国でも有数。長崎での全日本教職員大会に引き続いて大分に乗り込む。青木、東、GK島崎ら中国遠征組が主力。ベテラン村田がプレーイング・マネジャーとして相変わらずがんばっている。青木の存在は他チームにとっては脅威だろうし、なんとかベスト4にという意欲は軽視できない。

クラブチームは地元2チームを含めて、学生、実業団を破る力はないのではなかろうか。わずかに熊本クがマークされる程度だ。愛好家、有志が集まってある程度の練習で勝ち進むことができた。昔とは、比べものにならぬほど大会の規模も内容も上がっている。多くの困難を乗り越えて本大会に姿を見せる努力には敬意を表する。だがもはやクラブチームには、闘志でどこまでといった期待以外には大きなユメはかけられなくなってしまった。時流とはいえ、寂しいことである。

女子の展望

「5強時代」というはなやかなキャッチフレーズでスタートした今シーズンだが、その後各チームにメンバーの変動があった。関係者の話を総合すると、この大会は、優勝候補が大洋デパート(熊本)、田村紡(三重)。有力候補が大崎電気（埼玉・前回優勝）。圏内が愛知紡（愛知）。5強のすべてが優勝候補にあがり、未曽有のツバぜり合いを予想していたのとはだいぶ情勢が違う。まず、連勝をねらう大崎は深津、田村、斎藤が退いたうえ、故障者が続いて一時はチーム編成があぶなかった。都民大会（5月）では東京重機と接戦するなど昨年より安定感にとぼしい。宇井、鈴木、早川、永井それにGK古谷ら手いっぱいのメンバーでは、持ち駒にも不安がある。

巻き返しをねらう愛知紡も全盛当時のメンバーで残るのはGK篠崎と古谷だけ。小林、関口、新人伊藤(名女商)、市川(深谷女高)、高橋（山陽女高）らで、果たして第2期黄金時代の開幕を告げることができるだろうか。亀岡監督は「今年をきっかけにして」といっているが、確かにきょうよりもあすへの期待の方が大きいチームである。

自信満々なのは大洋デパートと田村紡だ。大洋は九州選手権（5月）など地方大会でも好調な試合ぶり。新保、高山、隈、今村、枝尾、GK山口ら新快気鋭が張り切っているし、西村、久連松のベテランが健進なのも強みである。昨年は各大会で本命といわれながらも今一歩ですべてのタイトルをのがしている。今年は、こ、大会の試合ぶりによっては4冠王の希望も出てこよう。

田村紡も好調が伝えられる。昨冬、全日本総合室内で快勝を続けたときはむしろ〝意外〟さの方が強かったが、いまではだれもがその地力を認めている。種村、水谷、清水、渡辺好の成章中（三重県員弁郡）時代から6年にわたるコンーションは、ますます磨きがかかっている。川口、内藤、小林、信藤（新人・津女高）らが要所を固めている布陣は質、量ともに大洋と互角。GK渡辺の精かんなプレーも精彩を放っている。彼女らは指導に当たる宇津野一氏を「こわい。きびしい」といいながらも、よくその指導にしたがっている。このすなおさも田村紡の有力な武器ではないか。

ダークホースにあげられる東京重機、揖斐川電工。先輩チームとの差を果たしてどこまでつめ、あるいは追い越していくか。東京重機は都民大会で大崎電気に善戦、レナウンを大破しているし、揖斐川も練習量には自信があるだろう。ベストフォアの一角に食い込むことは大いに期待できる。

レナウン工業は選手の故障が多く棄権、新進の三菱鉛筆は国体山形予選とかち合ったため出場できないのは寂しい。

八一田朗氏当選（レス）

日本体育協会理事、日本アマチュア・レスリング協会長の八田一朗氏は7月の参院選挙全国区で当選したが、「全国のハンドボール関係者のご声援に深く感謝します」とこのほど日本ハンドボール協会にあいさつがあった。

楽書帖

軟式庭球転向者の声

鷲尾武治

○…某月某日に東京・日比谷公園コートで東都大学軟式庭球リーグ戦があった。社の近くなので散歩がてら取材を兼ねて見物に出かけた。学連役員の中所君（日体大）がきて「先生(私のこと)をどこかで見た記憶があります。いま思い出しますから少し待ってください」という。〝どこで見たのかね〟と催促すると中所君は突然大きな声で「わかりました。ハンドボールですよ」。「先生は昨年ヨーロッパへ行ったでしょう。つい1週間前にハンドボールの男子7人制世界選手権大会報告を入手して読んだんです。この報告書に先生の顔写真が掲載されていました。間違いありません」と自信満々。

○…そこで私は〝どうして君がハンドボールのことを知っているのか。もっとも日体大はハンドボールの名門だから、報告書を見るチャンスもあろうが…〟。「私は山口県の徳山高校出身なんです。高校時代はハンドボールをやり、国体に出場したんですよ。芝浦工大の近森君は私の後輩にあたるんです。進学してからもハンドボールをやるつもりだったのですが。つい軟式庭球に身を投じてしまいました。ですからいまでもハンドボールに愛着を感じています。ハンドボールの試合があると、グラウンドの片すみでゲームを見ています。世界選手権でノルウェーを破ったのは金星ですね。ことしは中国遠征で成績があまりよくないと聞いていますが、中国にはなんとか勝ってほしいですね。近森君が元気なのでうれしい。いまは軟式庭球をやっていますが、ハンドボールの思い出は忘れることができません。みんないい人たちばかりでした。これからも暇があったらハンドボールのゲームを見に行きます」―これには私がびっくりした。そしてうれしかった。世界選手権の報告書を手に入れて読んだという中所君の気持ちがうれしかった。

○…7月の全日本学生選手権大会に朝日新聞の渡辺（邦）記者が連日取材に当たっていた。渡辺記者は昨年12月の全日本総合室内を見たときからハンドボールファン。「スピードがあっておもしろいですね。このほか東京ではビッグ・エベントはないのですか」と熱心なこと。芝浦工大の三浦先生や、〝ハンドボール三兄弟〟といわれている長兄近藤金博(東京重機監督)、次兄近藤信行（芝浦工大）の二人を取材、末弟が名城大付高にいるときいて「芝浦工大へはいりますか」と鋭い質問。近藤長兄は「さあー」と苦笑い。

× × ×

時評

報道関係へ万全のPRを

▽…ハンドボール界の人はよく私たち報道関係者に、「もっとハンドボールを取りあげてくださいヨ」という。なかには「マスコミが取りあげないために、ハンドボールはマイナースポーツに甘んじているのだ」といったような発言さえする人もいた。筆者自身、学生時代はこの競技に親しんでいたが、「サッカーやラグビー、バスケットボール、バレーボールなどに比べて、同じ球技でありながら新聞などでの取り扱いが小さいのだろう」と思ったことが再三あった。

▽…それがスポーツジャーナリズムの末席についてみると、ハンドボールのうけがあまりよくない理由がわかってきた。まずハンドボールの日本での歴史と実績が他の競技に比べて新しいこと。(協会創立は昭和13年というものの、全国的な規模の活動は第2次大戦後といったら戦前の先輩に失礼にあたるだろうか。) これは宿命的なものでカバーしようがない。これらの努力でそのハンディを1日も早くなくすようにしなければならない。ところが報道関係者へのPR不足、奉仕精神の欠如。関係者の努力でじゅうぶん解消できることだ。

▽…球界のPRのまずさと報道関係者へのサービスの悪さは一考を要する。大会の直前になって日程や組み合わせを発表したり、それも文書を配るだけで口頭での説明が行なわれることなど少ない。サービスに至ってはゼロだ。頼まなければプログラムはくれない。メンバーを教えてくれない。試合記録の出来上がりがおそいなど…。大会ごとに「報道係り」なる役目の人はいるのだが、役にたったためしがあまりない。チームの情勢、球界の動向などもちろん知らず、その大会のことでもちょっと複雑になると「わかりません。」

▽…「ハンドボールをもっと取りあげてくださいよ」といいながら、かつて国際試合を含め報道関係者にどれほどの資料を提供しただろうか。あるとき、ある記者が大会の予想を少々しつこく聞いたら「そうしたことを調べるのがあなたがたの仕事じゃないのですか」と聞きなおられたという。その記者がそれいらいハンドボール会場に姿を見せなくなったのは当然である。ついでにいえばこのことに限らず、人にものを頼むマナーが悪いのは大きな欠点だ。思いあたることが多いハズである。7月から8月にかけては全国大会が多い。報道関係者へのPRに万全を期すよう、あえて関係者のみなさんにお願いしたい。（杉山茂＝NHK）

× × ×

エールフランス

パリへの直行便〈北極回り〉



ビジネスでヨーロッパへ旅行されるお客さまのために、エールフランスでは〈北極回り〉にボーイング707ジェット機を就航させております。

北極回り　東京発　午後　10時30分　〈水・金〉
　　　　　パリ着　翌朝　9時5分

パリを中心として、ヨーロッパの各地にエールフランスの航空網が縦横にひろがっております。またエールフランスでは日本のお客さまのために、機上には日本人スチュワーデスを、ヨーロッパの各主要都市には21名の日本人駐在員を配置し、常にお客さまのお世話をいたしております。なお、南回りは〈月・火・木・土・日〉の午前10時30分パリへ向け就航しております。

AIR FRANCE
LE PLUS GRAND RÉSEAU DU MONDE
à Votre Service



東京都港区赤坂溜池　エールフランスビル　電話（584）1171代表
大阪市東区大川町淀屋橋　勧銀ビル　電話（202）6326代表
東京都千代田区日比谷　三井ビル　電話（501）6331代表
名古屋市中村区広井町3―88　大名古屋ビル　電話（54）0540

品質と技術を誇る

金型設計製作　　プラスチック成型　　部品組立

KONEKATA



株式会社宗形製作所

本社工場　大阪府高槻市辻子241番地
TEL. 高槻(5) 1191－5・5051・5052

関東営業所　横浜市西区久保町49番地
TEL. 横浜㉓4964番

東京

夏の全日本総合に名案？

軟式野球の全国大会におもしろい試合方式がある。それは全国のA級チームを集めて「一部大会」B級チームを集めて「二部大会」をやっている。日時も場所も同じ。つまり優勝チームが2チーム出る。またバスケットボールの関東高校選手権大会でも各都県の一位チームで「Aブロック大会」2位チームを集めて「Bブロック大会」をやっている。これはそれぞれのスポーツ人口を増やすひとつの方法としてはヒットだ。B級チームでも全国大会で優勝できるチャンスが与えられていることは、それぞれの選手にとっては大きな魅力といってよかろう。頭をひねればいいチエが出るものである。

これと同じような案を東京都ハンドボール協会で考えている。6月の常任理事会で渡辺会長が「夏の全日本総合選権手大会で全立大、芝浦工大、千代田印刷機、日体大、大崎電気、同志社大などの実力A級チームと、このほかの実業団、クラブチームとが一緒になって優勝を争うのは考えるべきだと思う。つまり実力A級チームと、これ以外のチームとに分けてやったらどうだろう。」という意味のことを発言。「ひとつみんなで考えてみたらどうですか」とつけ加えた。つまり前年度優秀チームにA級と認められるチームを加えて「Aブロック(仮称)」。それ以外のチームでBブロック(仮称)とし、そして試合をやる。もちろん両ブロックで優勝したチームには「Aブロック」「Bブロック」のタイトルを与える。

それからAブロックの最下位チームとBブロックの優勝チームとで入れ替え戦をやる。早い話が学生リーグで行なっている一、二部入れ替え戦と同じこと。どこにねらいがあるのかといえば、(1)Bブロックチームでも優勝のチャンスがあること(2)実力のかけ離れたチーム同士の試合をなくすこと(3)Aブロックチームで最高の試合をやること…であると思う。このアイディアの良しあしは別にしても、ちょっといただけるのではないだろうか。いまのハンドボールは夏の全日本総合、冬の全日本大会がある。夏の全日本総合が降雨の場合、会場を体育館に移す。これでは室内と同じ。

夏の全日本総合をAブロック、Bブロックに分けて行なうのも一策である。底辺をひろげる意味からも、若い人たちに優勝の希望を持たせるためにも考えて見るのもいい。

東海

最後のトリデも落ちる？

実業団の台頭で長い伝統を誇るクラブチームの影がシーズンごとにうすれて行く。最近でも名門チームが新進実業団によって敗れてしまった。第17回全日本総合東海予選(6月・名古屋)で桜丘会(愛知)、清商ク(静岡)の失格がそれだ。桜丘会は本田技研(三重)に、清商クは常盤工業(岐阜)に一回戦(=準決勝)で敗れ、勝者二チームが本大会への出場権を得た。桜丘会といえば、高校界の最強桜台高のOBチームとして有名。過去全日本総合には9年連続10回、国体にも12年連続12回出場し、国体では第11回(昭31)と第15回(昭35)に優勝し、準優勝4回。全日本総合では第10回(昭33)に準優勝している名門中の名門。

清商クも清水商(昭和33年全国高校優勝校)のOBチーム。全日本総合には過去2回、国体には4回出場しているチームだ。桜丘会と清商クは東海球界にあって激しい対抗意識を燃やしている。両者の存在は球界を全国一の激戦地区にしていた。その両チームが期せずして、同じ日に実業団によって敗れ去るというのはあまりにも皮肉なことではなかろうか。常盤工業は今秋の岐阜国体に備え、昨年あたりから強化につとめている。この大会でも社長以下がバスで応援に乗り込む熱の入れよう。昨年の全日本ジュニアに選抜されたGK渡辺、早見、今井の加納高トリオ、それに永富(芝浦工大出)。本田技研は四日市工高のOBを中心に4年前から活動を始め、ことしは大下、花井(以上中高商)、GK本田(堺工)らを加えて充実した。三重県下ではすでに常勝鶏の森クを制してトップチームになっている。

桜丘会にしても、清商クにしても、メンバーが仕事に追われている。まとまった練習ができないことが敗因のいちばん大きなものだろう。経済的な問題もからんで常に練習ができるわけでもないし、メンバーを固めるのもむずかしい。しかも卒業生の大半が東西の大学に散ってしまうため、メンバーの新陳代謝が行なわれない。往年の「名」「顔」だけをたよりにメンバーを編成しているのでは、気鋭を集めて意気揚がる実業団とではだいぶ差ができてしまう。桜丘会と清商クの敗退はクラブ界にショックを与えた。『桜丘会が敗れるようでは…』とか『男子も実業団の天下になるか』という声が強い。『クラブ界の〝最後のトリデ〟がくずされた』と言った人がいる。寂しい話である。

球界パトロール



芝浦工大、7度目の優勝

全日本学生選手権大会

男子第8回、女子第1回全日本学生ハンドボール選手権大会は7月7日から11日まで東京・駒沢第2球技場で行なわれた。予想どおり男子は芝浦工大—立大の優勝争いとなり、芝浦工大が前半のリードを保って立大を破り、昨年に次いで2連勝、通算7回目の優勝をとげた。女子は日体大が圧倒的に強く、3戦3勝して初優勝した。高松宮殿下から芝浦工大渡辺主将に高松宮杯が、同妃殿下から日体大北村主将に妃殿下杯が授与された。〔写真は胴上げされる芝浦工大の三浦元秀ハンドボール部長〕

立大の逆転ならず

男子

▽1回戦

関大 38（25—6、13—6）12 日大

〔評〕前半日大の小松崎がファインプレーをみせて善戦。後半関大のポストプレーが成功して日大を押えた。

中大 28（16—9、12—12）21 京大

〔評〕京大は関西学生リーグ春の優勝チーム。中大の体力勝ちといっていい。京大はしばしば好プレーをみせたが、中大のまとまりある攻撃に手が出なかった。

中京大 33（16—7、17—8）15 金沢美大

〔評〕勝負は前半25分で決まった。中京大は速攻をかけて13—8として安全圏にはいった。金沢美大は山下、多田のコンビでがんばったが惜しくも敗れた。

日体大 30（14—4、16—5）9 西南学院大

〔評〕試合開始直後から雨となり、日体大得意の速攻がみられなかったが、うまいポストプレーで得点。西南大は動きが悪く、パスも思うように通らなかった。

立命大 28（13—14、15—10）24 明大

〔評〕明大は前半11分まで8—3とリードしたが、20分7—3と立命大に逆転されてからミスが目だった。それにポイントゲッター福本がマークされてバン回できなかった。

立大 40（17—4、23—4）8 富山大

〔評〕富山大は善戦むなしく敗れた。GKのボール出し、パスワークにいま一歩の上達がのぞましい。立大の勝利は順当。

茨城大 30（17—10、13—5）15 東北学院大

〔評〕東北学院大はオフェンスの幅がせまく、走りも横走りのためフェイントをかけてもシュート体勢にはいることができなかった。これが大きな敗因となった。

教大 23（13—9、10—8）17 早大

〔評〕教大は前半北井を中心にボールをよく回して加点、後半は大西に打たせた。早大はよく走り後半12分14—14とタイに追いついたが、大西に打たれて惜敗した。

甲南大 19（11—8、8—2）10 武蔵工大

〔評〕武蔵工大は甲南大の簡単なローリングにひっかかり、ノーマークシュートを打たれて敗れた。甲南大もあまりパッとしなかった。

桃山大 23（13—9、10—11）20 慶大

〔評〕桃山大は後半19分から2分間に中村、北田の好シュートで18—15とリードを奪い、慶大の追撃をふり切った。慶大は小橋、花野ががんばったが、及ばなかった。

順天堂大 24（16—8、8—6）14 東大

〔評〕前半は一進一退。後半東大は疲れが出て帰陣がおそく、順天堂大の速攻を許してしまった。

▽2回戦

芝浦工大 22（11—10、11—8）18 関大

〔評〕2連勝をねらう芝浦工大は前日の雨でグラウンドが軟弱なため得意の速攻が出ず、大いに苦戦した。フェイントをかけてもスリップしてきかず、近藤、近森のロングも決まらなかった。後半11

分には13—15と関大にリードされる不出来。23分近藤のシュートで再び18—17とリードしてからやや調子が出て、その後も青山、吉金、竹内の連続ゲットでやっと関大をふり切った。

法　大 20（10—12 / 10—7）19 中　大

〔評〕 法大の勝因はGK渡辺の好守、FP米沢、広野の好打である。中大は後半29分清元の7MTで20—19と1点差に迫ったがホイッスル。

日体大 34（19—9 / 15—6）15 中京大

〔評〕 ダブルスコアはちょっと意外だった。中京大は走りが止まり、スタンディング・シュート、パスが多かった。日体大は速攻で攻めまくって大勝した。

立命大 21（11—6 / 10—5）11 東京学芸大

〔評〕 ユニフォームが同色に近かったのは一考を要する。前半東京学芸大の好プレーが光った。それにしても立命大は東京学芸大を相手にもたついたのはどうしたことか。

立　大 24（15—4 / 9—6）10 広島商大

〔評〕 広島商大は積極的に攻めた。とくにサイド攻撃で前半5分まで3—1とリードしたが、立大はオープン攻撃でたちまちリードを奪った。後半ちょっとラフプレーになった。広島商大の善戦をほめたい。

教　大 22（15—5 / 7—7）12 茨城大

〔評〕 前半は接戦。後半教大のディフェンスはよくなり、しかも幅広い攻撃で茨城大のディフェンスをゆさぶってしまった。

甲南大 20（12—12 / 8—6）18 桃山学院大

〔評〕 最後まで追いつ追われつの接戦。好ゲームだったが、惜しいことにラフプレーが多かった。後半11分桃山大が14—11とリードしたが、疲れが出てシュートミスが多く、逆に甲南大の速攻を浴びて敗れた。

関　学 21（13—6 / 8—9）15 順天堂大

〔評〕 順天堂大の善戦はりっぱだった。エース高野を中心によくまとまっていたが、後半息切れしてしまった。関学は後半になると長身の飯端に打たせてリードを奪い、食い下がる順天大を押えた。

◇準々決勝

芝浦工大 23（8—7 / 15—5）12 法　大

▽レフェリー佐野（教大出）

得(芝浦)				(法大)得
0	渡　辺	GK	渡　辺	0
0	山　村	GK	金　田	0
6	近　藤	FP	村　田	0
5	近　森	FP	米　沢	4
1	青　山	FP	岩　崎	1
2	吉　金	FP	高　橋	1
0	岩　崎	FP	前　田	0
2	山　田	FP	大　山	1
0	小　林	FP	広　野	4
6	関　根	FP	稲　垣	0
1	竹　内	FP	堀　江	1
23	(3)	7MT	(0)	12

〔評〕 前半10分までは両チームとも調子が出ず接戦。15分をすぎると芝浦工大は走った。この走りは実に見事なもので、アッという間に点差が開いた。近藤が自由自在に走っては打ち、打っては走った。近森はスタンディング・シュートが多く、得点にはならなかったが、このロングは魅力。吉金、関根もよかった。

法大は岩崎を中心に反撃したが、芝浦工大の厚いディフェンスを破れず、むだなパスが多かった。法大には芝浦工大ほどの走りがなく、これが勝敗を二分した。

日体大 18（10—8 / 8—9）17 立命大

▽レフェリー　安藤（法大出）

得(立命大)				(日体大)得
0	田　中	GK	佐　藤	0
0	藤　本	GK	加　藤	0
0	西	FP	渡　辺	3
3	樽　井	FP	神谷葭	6
0	渡　村	FP	井　上	3
0	上　善	FP	高　橋	2
3	渡辺千	FP	小林重	0
0	増　田	FP	中　釜	4
2	木　村	FP	小林健	0
9	北　田	FP	神谷治	0
0	渡辺正	FP	早　川	0
17	(2)	7MT	(3)	18

▽反則退場　渡辺(千)2分

〔評〕 立命大の善戦が光った。9分から15分までに6点をあげて7—5と一気に逆転するほど。北田の好プレーは非常によかった。後半は全くのシーソー・ゲーム。名門日体大も顔色なかった。日体大は23分井上、25分渡辺のシュートで17—15と2点差をつけ、その後立命大の必死の反撃を1点に押えて逃げ切った。

立　大 18（13—6 / 5—8）14 教　大

▽レフェリー　岡前(日体大出)

〔評〕 〃後半の立大〃といわれるほど、後半にはいっての立大は強かった。前半もたついて5—8と3点差をつけられたが、後半になると前半とは打って変わるほどの速攻を展開。とくにエース木野に打たせたのが成功した。教大デ

得(立大)				(教大)得
0	尾　形	GK	風　間	0
0	北　田	GK	畑	0
0	伊　東	FP	松　田	0
3	藤　城	FP	大　西	3
2	林	FP	新　堂	3
5	木　野	FP	北　井	3
6	北　村	FP	吉　沢	4
1	東	FP	植　田	0
0	谷　川	FP	高　田	0
0	石　川	FP	松　井	1
1	野　田	FP	平　田	0
18	(1)	7MT	(2)	14



芝浦工大吉金のシュート(決勝の対立大戦から)

イフェンスの詰めの甘さもあったが、フリースロー・ライン後方から打つ木野のロングは見事だった。藤城、林、北村、石川らも木野を盛り立てていた。

教大は前半リードを奪ったものの、後半北井に決定打がなく、しかもローリング・パスを繰り返すだけ。中央突破、サイド攻撃などもっと積極的に攻めてほしかった。

関学 26（12―5／14―7）12 甲南大

▽レフェリー 中沢（芝浦工大出）

得	（関学）		（甲南）	得
0	石田	GK	三宅	0
0	松田	GK	長谷川	0
3	高須	FP	高田	1
5	藪田	FP	福田	4
1	永井	FP	松井	3
9	飯端	FP	加藤	0
5	石井	FP	灰藤	3
3	宮本	FP	久光	1
0	矢本	FP	川淵	0
0	吉田	FP	平戸	0
0	西野	FP	酒井	0
26	(2)	7MT	(2)	12

〔評〕関学のワンサイド・ゲーム。前半は両チームともセットプレーのみで凡戦。関学は飯端、石井に打たせて楽勝した。甲南大は福田、灰野が健闘したが、ゲーム自体にスピードがなかったのはどうしたことか。

◇準決勝

芝浦工大 17（6―7／11―4）11 日体大

▽レフェリー 佐野（教大出）

得	（日体大）		（芝浦）	得
0	佐藤	GK	渡辺	0
0	加藤	GK	山村	0
2	渡辺	FP	近藤	3
4	神谷葭	FP	近森	6
2	井上	FP	青山	1
2	高橋	FP	吉金	0
0	小林重	FP	岩崎	0
1	中釜	FP	山田	4
0	小林健	FP	小林	0
0	神谷治	FP	関根	3
0	早川	FP	竹内	0
11	(1)	7MT	(1)	17

〔評〕芝浦工大の勝利は順当。試合の興味は日体大が芝浦工大から何点取るか、近森が何本ロングシュートを決めるかにあった。近森はこの試合6点をたたき出し、芝浦工大のひとつの勝因になった。

試合はまず日体大が先取点をあげた。5分高橋が芝浦ボールのカットに成功、ノーマーク・シュートを決めた。芝浦はすぐ追い駆け、6分近藤が日体ゴール前のルーズからうまく中央を割って飛び込んで1―1。10分には近藤が7MTを決め、11分、12分には得意の速攻で4―2。13分日体大は神谷葭のシュートがゴールポストに当ってはね返ったのを、高橋がうまく拾ってゲットした。このプレーはよかった。

芝浦は15分に近藤のロングパスを近森が決めて5―2。29分をすぎると速攻、ロングであっという間に日体大を引き離した。日体大は芝浦工大のディフェンスを破れず、23分きれいなリターンパスから渡辺がゲットして4点目をあげたにとどまった。

ところが芝浦工大は後半になると動きがピタリととまってしまった。18分までにたった6点しかあげられなかった。日体大は反則退場者を出しながらも善戦し、後半は日体大のペースとなってしまった。20分から28分まで日体大は4点をあげたが、この間芝浦工大はノーゴール。お粗末といえる。ただ芝浦は近藤、近森の二人を軸として若い関根、山田が活躍した。やはりスピードがなければ勝てないことがこのゲームでもよくわかった。

立大 23（12―6／11―4）10 関学

▽レフェリー 岡前（日体大出）

得	（立大）		（関学）	得
0	尾形	GK	石田	0
0	北田	GK	松田	0
2	伊東	FP	高須	4
2	藤城	FP	藪田	1
1	林	FP	永井	1
8	木野	FP	飯端	1
4	北村	FP	石井	2
4	東	FP	宮本	1
0	谷川	FP	矢本	0
0	石川	FP	吉田	0
2	野田	FP	佐渡	0
23	(1)	7MT	(2)	10

〔評〕立大の出足はすばらしかった。前半3分藤城が左45度からワンバウンド・シュート、5分木野が右45度からまたもワンバウンド・シュートして2―0。8分には木野がフリースローからスタンディングのまま右すみにロングシュートを決め、9分にも木野があざやかなショートパスをポストにいた北村に送った。北村はふり向きざまゲットして4―0とリードした。この9分間の立大のプレーは関学の立ち上がりを完全に封じた。もっとも関学はスローオフのときからいたずらにボールを回すだけ。少しもすごみがなかった。逆に立大はボールキープすると関学ゴール前を激しく動き回って関学ディフェンスをゆさぶった。この攻撃の違いがそのまま得点差に現われたといっている。

GK尾形のボール出しもよかったが、スローペースといわれていた立大が目もとまらぬ早い攻撃。しかも19分30秒から22分までの速攻で4点をあげるなど全く立大のペースだった。試合は前半で決まったといっていいほど。

後半の立大のペース。きれいなポストプレーや木野のロングなど自由自在に打ちまくつた。関学は飯端が無理にシュートし、これが立大の速攻に結びついていた。飯端は力もいいし、肩も強い。たのもしい選手だが、コンビネーションがとれず、飯端をじゅうぶん生かせなかった。これが大敗の原因。

◇三位決定戦

関学 18（6―6／12―8）14 日体大

◇決勝

芝浦工大 15（5―6／10―3）9 立大

▽レフェリー 佐野（教大出）

▽スローオフ 立大

得	（芝浦）		（立大）	得
0	渡辺	GK	尾形	0
0	山村	GK	北田	0
5	近藤	FP	伊東	0
2	近森	FP	藤城	3
1	青山	FP	林	0
1	吉金	FP	木野	1
3	関根	FP	北村	4
3	山田	FP	東	0
0	小林	FP	谷川	0
0	岩崎	FP	石川	0
0	竹内	FP	野田	1
15	(2)	7MT	(1)	9

「2分間退場」東、岩崎

「試合経過」

▽前半

（1） 1分近森ゴール中央からゲット（芝1―0立）

（2） 2分北村のポストプレー（芝1―1立）

（3） 5分芝浦速攻にはいったが、立大のラフプレーで7MT。近藤決める（芝2―1立）

（4） 6分近藤シュートしたがGK尾形よくとめる。はね返ったボールを山田シュート、尾形またも好守。再びはね返ったボールを関根ゲット（芝3―1立）

（5） 8分芝浦のフリースロー、ポイントに立った近藤は近森へショートパス。近森ジャンプシュートを決める（芝4―1立）

（6） 9分芝浦の速攻。近藤―吉金と渡って吉金ゲット（芝5―1立）

（7） 11分関根ワン・フェイントをかけて立大ディフェンスを抜き、右45度からゲット（芝6―1立）

（8） 15分木野はポストに立っ

ている北村に好パス。北村きれいに決める（芝6—2立）
（9）17分芝浦ゴール前で立大ボールをカット。速攻にはいって山田ゲット（芝7—2立）
（10）21分立大ゴール前で木野は芝浦ボールをカット、北村にロングパス。北村ノーマークシュート（芝7—3）
（11）25分近森のロングパスを青山決める（芝8—3立）
（12）25分25秒近藤7MTを決める（芝9—3立）
（13）26分速攻から吉金—近藤—関根とわたり、関根決める。（芝10—3立）
▽後半
（1）4分藤城左サイドからシュート。芝浦ディフェンス、このボールをたたき落としたが、幸運にもGKの右を抜いてゴールイン（芝0—1立）



（2）5分藤城こんどは右サイドからシュート。（芝0—2立）
（3）7分関根ノーマークシュート。（立大選手は独走中の関根のユニホームを強く引いてとめようとした。ヨーロッパでは退場のケース）（芝1—2立）
（4）11分木野7MTを決める（芝1—3立）
（5）12山田左サイドからシュート（芝2—3立）＝木野アウト
（6）13分近藤中央からゲット（芝3—3立）＝木野イン
（7）15分近藤右45度からワンバウンドシュート（芝4—3立）
（8）18分藤城左サイドからゲット（芝4—4立）
（9）23分木野のロングパスを北村決める（芝4—5立）
（10）26分近藤ジャンプシュート（芝5—5立）＝近森アウト
（11）29分56秒野田左45度からシュート（芝5—6立）



〔評〕春のリーグ戦で13—21で敗れている芝浦工大は見事雪辱した。芝浦工大の勝因はなんといってもディフェンスがよかったこと、速攻を展開したこと、関根が60分間徹底的に立大ポイントゲッター木野をマークしたことである。5人—5人のゲームとなったといっていい。関根は自分のプレーに忠実だった。このため芝浦工大は木野を意識せず、攻めることしか考えていなかったようだ。

芝浦工大は春のリーグ戦でセット・オフェンスにこだわりすぎて、得意の速攻が出ず敗れた。リーグ戦終了後の強化練習で（1）走ること（2）ディフェンスの強化…に重点を置いた。これが実を結んだものである。立大は木野がマークされてコンビネーションがとれず、攻守とも精彩を欠いた。そこを芝浦工大がうまくとらえてカット—速攻。前半11分には早くも6—1と差がついた。この日の近森は両ヒザの痛みをこらえて健闘したが、ロングシュート、ジャンプシュートはいずれも流れて得点にならなかった。「近森が決めていてくれたらもっと差がついた」と中沢監督は苦笑い。勝負は前半で決ったようなもの。

近藤はあまり目だたなかったが、ここぞと思うときに得点をあげていた。一人で5点をあげたのは実にりっぱ。関根も攻撃になると人が変わったようにすばらしい動きをみせ、山田もよく走った。

立大は木野が動けず、これが致命傷となった。これをカバーしたのが北村、藤城の二人である。攻守ともすばらしいプレーをみせた。立大ベンチは木野をポストに置く作戦をなぜ早くとらなかったか。そういう考えがあったのかもしれないが、切り替える余裕がなかったのだろう。この勝負はどうみても芝浦工大の作戦勝ち。（鷲尾武治）

女子は日体大初優勝

▽リーグ戦

日体大 16（12—1 / 4—3）4 日女体大
中京大 6（4—3 / 2—2）5 日女体大
中京大 10（3—4 / 7—1）5 東女体大
東女体大 8（3—2 / 5—2）4 日女体大
日体大 14（7—1 / 7—1）2 中京大
日体大 18（6—3 / 12—2）5 東女体大

「順位」1、日体大3勝 2、中京大2勝1敗 3、東女体大1勝2敗 4、日女体大3敗



〔写真説明〕
（上）高嶋理事長のご説明を受ける高松宮ご夫妻
（中）高松宮殿下から同宮杯を受ける芝浦工大の渡辺主将
（下）高松宮妃殿下から同妃杯を受ける日体大の北村主将

恒例の大学定期戦開く

▽第20回早大対関学定期戦（6月7日、大阪府立体育会館）

早　大 21（10－8 11－7）15 関　学

関学の14勝6敗。

立大、同大を破る

▽第15回立大対同志社大定期戦（6月13日、京都市体育館）

立　大 29（12－7 17－9）16 同志社大

立大の8勝7敗。

慶大の攻守に地力

▽第18回慶大対京大定期戦（6月14日、横浜文化体育館）

慶　大 14（9－6 5－7）13 京　大

慶大の11勝5敗2引き分け。

東大も京大に善戦

▽第15回東大対京大定期戦（6月13日、千葉県検見川）

京　大 17（7－10 10－6）16 東　大

京大の13勝2敗。

岐大、滋賀大に連勝

▽復活第8回岐阜大対滋賀大定期戦（ダブルヘッダー）（6月6日、滋賀県近江高球技場）

岐阜大 25－1 滋賀大

岐阜大 25－17 滋賀大

岐阜大の7勝1敗。

阪大、名大を破る

▽第12回大阪大対名古屋大定期戦（6月5日名古屋金山体育館）

阪　大 23（10－8 13－8）16 名　大

名大の7勝4敗1引き分け。

早大、京都勢と交歓

▽春季リーグ終了後の早大は6月8日京都市体育館で関西春の優勝校京大と京都学生選抜の両チームと対戦した。

京　大 25（9－7 16－10）17 早　大

京都学生選抜 27（15－11 12－13）24 早　大

関東学生新人リーグ

関東学生新人戦は5月24、25の両日駒沢で行なわれ、男子は芝浦工大、女子は日体大が優勝した。

▽男子予選リーグ

〔A組〕①芝浦工大2勝②日体1勝1敗③中大2敗

〔B組〕①法大3勝②日大2勝1敗③慶大1勝2敗④東大3敗

〔C組〕①立大2勝②武蔵工大1勝1敗③上智大2敗

〔D組〕①早大2勝②教大1勝1敗③国士館大2敗

▽同決勝トーナメント準決勝

芝浦工大 16－14 法　大

立　大 18－17 早　大

▽3位決定戦

早　大 18－13 法　大

▽同決勝

芝浦工大 28（13－1 15－8）9 立　大

▽女子（リーグ戦）

東女体大 8－3 日女体大

日体大 21－0 日女体大

日体大 10－6 東女体大

（順位）①日体大②東女体大③日女体大

全国高校選手権大会予想

注目の明星－櫻台の一戦（男子）

女子 静岡城北－栃木女の対決か

高松宮賜杯第16回全国高校ハンドボール選手権大会は昭和40年度全国高校総合体育大会熊本大会の一つとして8月2日から7日まで熊本市で開かれる。組み合わせの別表のとおり。この大会から初めて男子の部に沖縄代表が参加したのが注目される。

注意される名城大付

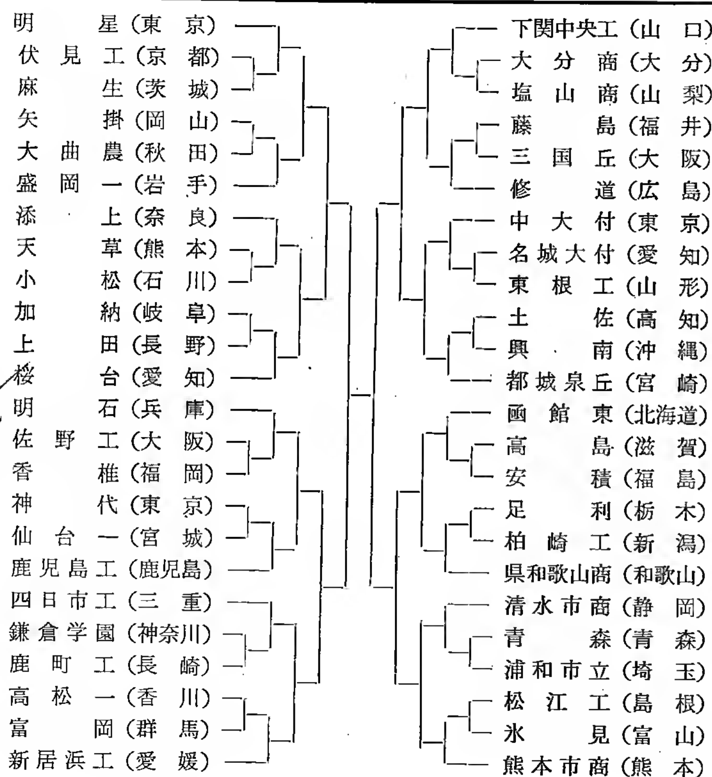
〔男子〕

昨年は明星（東京）が初優勝、ことし第1シードに推されて2連勝をねらっている。桜台（愛知）の稲石監督は「うちはおそらく準々決勝で明星と対戦するだろう。私の第一目標は"打倒明星"である。明星を倒せば優勝できるだろう」といっている。それほど明星はマークされている。

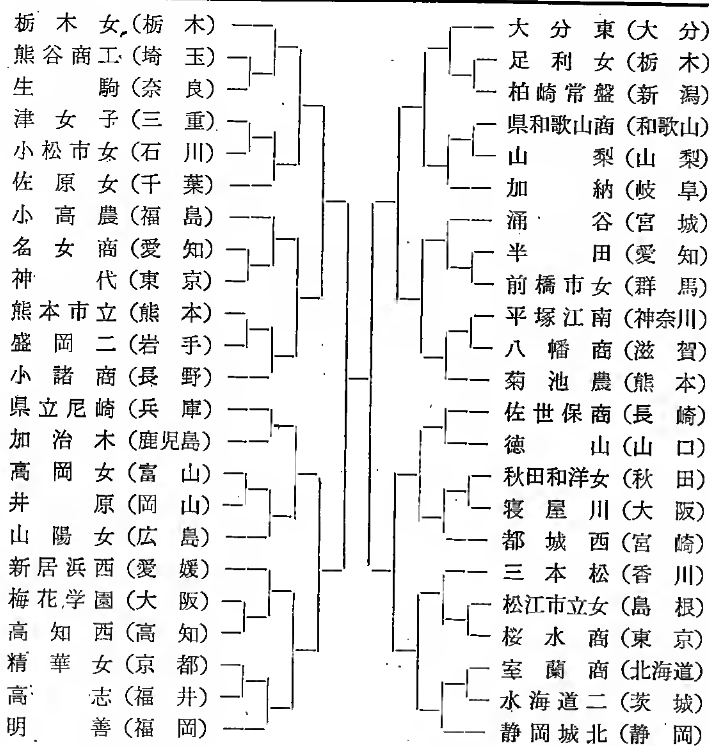
Aブロックは明星、桜台、盛岡一（岩手）、Bブロックは新居浜工（愛媛＝第四シード）、明石（兵庫）、Cブロックは名城大付（愛知）、下関中央工（山口＝第三シード）、修道（広島）、Dブロックは熊本市立商（熊本＝第二シード）、清水市立商（静岡）、県立和歌山商（和歌山）が強い。順当に行くと準々決勝は明星－桜台、新居浜工－明石か神代（東京）、下関中央工－名城大付、熊本市立商－県立和歌山商となるだろう。Aブロックの明星－桜

高松宮賜杯第16回全国高校選手権大会組み合わせ

男子の部



女子の部



台の勝者が決勝に進むだろう。もう一つの決勝進出チームは下関中央工、熊本市立商ではないか。下関中央工は中国高校大会の優勝チーム、熊本市立商はこの大会を目ざして強化練習を続けてきた。どっちが勝つか見当がつかない。名城大付を高く買ったのは愛知県という激戦地で中京商を押えての出場であり、その実力はあなどりがたいものがある。このほかでは佐野工（大阪）、神代、中大付（東京）、安積（福島）、浦和市立（埼玉）がどこまでやるか。修道、三国丘（大阪）、氷見（富山）も見のがせない。沖縄代表の興南がどのようなプレーを見せるかも興味深い。

激戦のDブロック

女子

Aブロックは2連勝を目ざす栃木女（栃木＝第一シード）、名女商（愛知）、熊本市立（熊本）、Bブロックは明善（福岡＝第四シード）、山陽女（広島）、県尼崎（兵庫）、Cブロックは菊池農（熊本）、半田（愛知）、大分東（大分＝第三シード）、Dブロックは名門静岡城北（静岡＝第二シード）、寝屋川（大阪）、徳山（山口）、水海道二（茨城）が強い。順当に行くと準々決勝は栃木女—名女商か熊本市立、明善—山陽女、菊池農—大分東、静岡城北—寝屋川か徳山というところか。常識的な見方ならベスト4は栃木女—明善、菊池農—静岡城北。ただ女子の場合、その日のコンディションに左右されるから思わぬ番狂わせが出ないとも限らない。昨年と同様に静岡城北—栃木めの争いになるのではないか。

Aブロックの名女商は稲沢を押えての出場なのでかなりの戦力がある。一回戦で神代と対戦するが、神代もかなりやるのでゆだんはできない。Dブロック一回戦で秋田和洋対寝屋川戦もおもしろい。同じく二回戦で静岡城北はおそらく水海道二とぶつかるだろう。この一戦も見のがせない。それに徳山もいるので、このDブロックは激戦となる。ダークホースは半田、加納（岐阜）、新居浜西（愛媛）、柏崎常盤（新潟）といったところか。

▽　△　▽　△

連載第15回

ハンドボール球史

―― 四国・北海道で国体開く ――



昭和27年9月に国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）への復帰が正式に認められ、球界の活動はさらに活気を増した。国際試合の開催がうわさされ、プレーヤーの士気も一段と高まり、国内各選手権大会は充実した試合を展開した。国体も大会のたびに拡充されてきた。第8回（昭和28年）愛媛県今治市で、第9回（昭和29年）は北海道函館市で行なわれて競技の普及に多大な成果を生んだ。

この2大会で特筆されるのは、第8回大会から一般男子に1チーム6人以下に限って現役学生の出場を認めることになったこと。第9回大会から女子の競技規則に改正して、グラウンドをせまくして試合時間を短縮したり、メンバーの交代制限が緩和された。現役学生の国体出場はその後1チーム3人以下に縮少され、現在にいたるまで制限がなく、東京代表として日体大女子が数回にわたって単独出場しているほどだ。

北海道勢の健闘目だつ

【第8回国体・昭和28年28年10月22日〜26日・愛媛県今治市】

高校で愛知が前回に続き男女優勝したのが注目された。特に男子の桜台は3連勝、しかも26年に続いて2度目のダブル・クラウン（全国高校、国体）。女子の稲沢も2連勝、そして初のダブル・クラウンだった。この年の高校界のタイトルは桜台、稲沢によって愛知勢が独占したわけである。

一般女子で北星クが優勝したのをはじめ高校男子準優勝、高校女子3位という好成績。天皇杯得点は大阪と首位を分け合い、皇后杯得点は岡山、愛知などを押えて初優勝する躍進ぶりだった。

▼高校男子1回戦

桐生工（群馬）10―7 天城（岡山）
清水市商（静岡）13―5 屋代東（長野）
彦根東（滋賀）10―5 鎌倉学園（神奈川）
両国（東京）10―4 新居浜工（愛媛）

▽同2回戦

桜台（愛知）7―5 桐生工
古川（宮城）15―6 高田（三重）
岩国工（山口）9―8 博多工（福岡）
清水市商 8―6 小松実業（石川）
豊中（大阪）11―4 和歌山商（和歌山）
彦根東 15―4 済々黌（熊本）
函館工（北海道）15―4 高松工（香川）
両国 不戦勝 青森（青森）

▽同準々決勝

桜台 18―4 古川
岩国工 7―6 清水市商
豊中 9―7 彦根東
函館工 7―7 抽選 両国

▽同準決勝

桜台 10―6 岩国工
函館工 5―4 豊中

▽同3位決定戦

豊中 3―2 岩国工

▽同決勝

桜台 8（4―1、4―5）6 函館工

桜台は3連勝3回目。愛知代表の優勝も3連勝3回目。

▼高校女子1回戦

青陵（岡山）5―4 涌谷（宮城）
呉三津田（広島）8―6 井草（東京）
山梨（山梨）8―5 明善（福岡）
稲沢（愛知）18―1 佐川（高知）
静岡城北（静岡）15―3 高岡中部（富山）
寝屋川（大阪）14―1 京都女（京都）
函館中部（北海道）10―9 足利女（栃木）
彦根東（滋賀）13―2 今治西（愛媛）

▽同準々決勝

青陵 5―1 呉三津田
稲沢 12―2 山梨
寝屋川 5―3 静岡城北
函館中部 6―2 彦根東

▽同準決勝

稲沢 8―3 青陵
寝屋川 11―3 函館中部

▽同3位決定戦

函館中部 10―7 青陵

▽同決勝

稲沢 8（3―1、5―1）2 寝屋川

稲沢は2連勝2回目。愛知代表の優勝も2連勝2回目。

▼一般男子1回戦

桜丘会（愛知）19―7 京都ク（京都）
山口ク（山口）12―10 福岡ク（福岡）
滋賀ク（滋賀）19―3 奈良ク（奈良）
清水橘ク（静岡）11―6 操山ク（岡山）
全神奈川（神奈川）15―9 全茨城（茨城）
全山梨（山梨）15―8 愛媛ク（愛媛）
北嶺ク（富山）13―7 岐阜ク（岐阜）
大阪ク（大阪）33―4 浅陽ク（長野）
若球会（東京）10―5 函館サンダース（北海道）

▽同2回戦

桜丘会 18―6 済々黌ＯＢ会（熊本）
山口ク 27―1 香川同好会（香川）
清水橘ク 12―2 滋賀ク
仙台ク（宮城）10―7 全神奈川
全山梨 10―7 那賀ク（和歌山）

白亜ク（岩手） 9—5 北嶺ク
大阪ク 23—3 高知ク（高知）
茗球会 17—11 全群馬（群馬）
▽同準々決勝
山口ク 14—11 桜丘会
仙台ク 9—6 清水橘ク
白亜ク 8—7 全山梨
大阪ク 14—5 茗球会
▽同準決勝
山口ク 18—8 仙台ク
大阪ク 19—3 白亜ク
▽同3位決定戦
仙台ク 8—7 白亜ク
▽同決勝
大阪ク 14（6—4／8—4）8 山口ク
大阪クの優勝は3年連続4回目。大阪代表の優勝は3年連続5回目。
▼一般女子1回戦（1試合）
静岡城北ク（静岡） 11—9 大阪ク（大阪）
▽同準々決勝
小松ク（石川） 9—6 熊本ク（熊本）
北星ク（北海道） 8—5 城台ク（宮城）
倉敷青陵OG（岡山） 5—4 東京ク（東京）
静岡城北ク 5—3 愛媛ク（愛媛）
▽同準決勝
北星ク 12—7 小松ク
静岡城北ク 7—4 倉敷青陵OG
▽同3位決定戦
倉敷青陵OG 12—3 小松ク
▽同決勝
北星ク 9（5—4／4—3）7 静岡城北ク
北星クの優勝は初めて。北海道代表の優勝も初めて。
▼天皇杯順位 ①大阪・北海道③愛知④静岡⑤山口⑥岡山・宮城
▼皇后杯順位 ①北海道②岡山③静岡④愛知⑤大阪⑥石川

常勝軍、相次いで敗退

【第9回国体・昭和29年8月22日〜26日・北海道函館市】

北海道の地域性から慣習を破って夏期に開催されハンドボールは参加チームが前回の半数に宿少された。ちなみに国体が10、11月以外の時期に開かれたのは、この大会と昭和39年の新潟（第19国・6月）の2回だけである。前回目ざましい活躍を見せた北海道勢は、わずかに高校男子で函館工がベスト4に勝ち残っただけ。

高校男子は桜台が準決勝で済々黌（熊本）に4連勝の夢をはばまれ、済々黌が余勢を駆って初優勝するところとなった。両校は国体の3週間前に開かれた第5回全国高校準決勝で対戦、このときは10—7で桜台が勝っている。済々黌はその雪震を遂げるとともに高校タイトルを初めて九州に持ち帰った。女子も3連勝をねらう稲沢が寝屋川（大阪）に決勝で敗れた。勝った寝屋川は全国高校の勝者でもあり、ダブル・クラウンとなった。一般男子は大阪クが準決勝で東京クに惜敗、これまた4連勝の野望を絶たれた。

▼高校男子1回戦（1試合）
豊中（大阪） 9—3 山口（山口）
▽同準々決勝
済々黌（熊本） 8—5 古川（宮城）
桜台（愛知） 14—5 新居浜工（愛媛）
函館工（北海道） 12—6 上田松尾（長野）
豊中 11—5 世田谷工（東京）
▽同準決勝
済々黌 10—9 桜台
豊中 11—9 函館工
▽同3位決定戦
桜台 15—5 函館工
▽同決勝
済々黌 9（3—3／6—4）7 豊中
済々黌は初優勝。熊本代表の優勝も初めて。
▼高校女子1回戦（1試合）
明善（福岡） 9—4 高岡（富山）
▽同準々決勝
青陵（岡山） 7—3 今治西（愛媛）
稲沢（愛知） 6—3 函館中部（北海道）
寝屋川（大阪） 10—2 足利女（栃木）
明善 8—3 涌谷（宮城）
▽同準決勝
稲沢 7—3 青陵
寝屋川 7—5 明善
▽同3位決定戦
明善 9—6 青陵
▽同決勝
寝屋川 4（2—1／2—2）3 稲沢
寝屋川高は初優勝。大阪代表の優勝は4年ぶり4回目。
▼一般男子1回戦
大阪ク（大阪） 25—4 清水橘ク（静岡）
三春台ク（神奈川） 10—8 函館サンダース（北海道）
東京ク（東京） 22—7 松任ク（石川）
浅陽ク（長野） 7—6 滋賀ク（滋賀）
福岡ク（福岡） 15—6 兵庫工ク（兵庫）
全茨城（茨城） 10—7 高知（高知）
桜丘会ク（愛知） 14—7 盛岡ク（岩手）
山口ク（山口） 14—12 熊本同心ク（熊本）
▽同準々決勝
大阪ク 19—9 三春台ク
東京ク 17—9 浅陽ク
福岡ク 11—6 全茨城
桜丘会ク 12—10 山口ク
▽同準決勝
東京ク 12—11 大阪ク
桜丘会ク 12—11 福岡ク
▽同3位決定戦
大阪ク 16—8 福岡ク
▽同決勝
東京ク 11（8—4／3—6）10 桜丘会ク
東京クの優勝は5年ぶり2回目。東京代表の優勝も5年ぶり2回目。
▼一般女子準々決勝
稲沢OG（愛知） 5—2 福島ク（福島）
青陵ク（岡山） 8—4 東京ク（東京）
大阪ク（大阪） 10—1 高岡ク（高岡）
熊本ク（熊本） 5—4 北星ク（北海道）
▽同準決勝
稲沢OG 9—7 青陵ク
大阪ク 5—4 熊本ク
▽同3位決定戦
青陵ク 9—6 熊本ク
▽同決勝
大阪ク 9（5—3／3—5／1—0／0—0）8 稲沢OG
大阪クの優勝は5年ぶり4回目。大阪代表の優勝は5年ぶり5回目。
◆天皇杯順位 ①大阪②愛知③熊本④東京⑤福岡、岡山
◆皇后杯順位 ①大阪②愛知③岡山④福岡⑤熊本、北海道

東京都協会告知板

理事会および代表者会議議事録

とき　6月24日（木）
ところ　大崎電気工業
出席者　猪狩、近藤、古賀、外山、安藤、中沢、荒川、岡村、和田、的場、津島、今野、安田生命、日体大、明正ク、日大、滴水会、早大、武蔵工大、上智大の各代表者

一、6月26、27日に行なわれる第17回全日本総合選手権大会東京都予選の組み合わせ抽選会を開いた。参加チームは上智大、武蔵工大、日大、日体大、安田生命、滴水会、明正ク、早大の8チーム。

二、全日本総合選手権大会関東予選は7月4日（日）東京都新宿区の戸塚一中で行なう。

三、第20回国体関東予選は9月10—12日まで千葉県佐原市で開かれる。

日体大が優勝

◇第17回全日本総合選手権東京都予選（6月26、27日、駒沢第一球技場）

▽一回戦
武蔵工大　21（14—6、7—5）11　上智大
日体大　36（15—12、21—8）20　日大
滴水会　30（15—6、15—6）12　安田生命
早大　66（40—5、26—3）8　明正ク

▽準決勝
日体大　不戦勝　武蔵工大
滴水会　25（10—9、10—11、2—1、3—2）23　早大

▽決勝
日体大　23（10—8、13—13）21　滴水会

（日体大）	得		得	（滴水）
加藤	0	GK	0	伊藤
三穂野	0	GK	0	大石
平井	0	FP	3	住広
大宮	4	FP	2	安藤
早川	5	FP	5	片山
福井	2	FP	4	桧森
大原	4	FP	0	森田
木村	7	FP	0	三浦
高橋菊	0	FP	0	中村
高橋重	1	FP	1	村上
田島	0	FP	6	明石
	23	（2）MT（5）7	21	

日体大、順天大クが代表に

◇第17回全日本総合選手権関東予選（7月4日、新宿区戸塚一中）

▽Aブロック
順天大ク（千葉）　26（12—10、14—9）19　法工ク（神奈川）
塩山ク（山梨）　20（10—12、10—4）16　法工ク（神奈川）
順天大ク（千葉）　30（15—5、15—3）8　塩山ク（山梨）
「順位」①順天大ク、②塩山ク、③法工ク

▽Bブロック
日体大（東京）　24（12—11、12—5）16　足利球友会（栃木）
足利球友会（栃木）　33（19—4、14—5）9　三洋電機（群馬）
日体大（東京）　49（27—3、22—3）6　三洋電機（群馬）
「順位」①日体大、②足利球友会、③三洋電機

この結果、関東代表は日体大（東京）順天大ク（千葉）と決定。

◇昭和40年度東京都高校春季リーグ戦成績

「男子」
（A組）①明星②明正③四谷商④江東商
（B組）①神代②北多摩③国立④赤羽商
（C組）①墨田川②府中工③東亜商④芝工大付属
（D組）①早大学院②一商③五商④羽田工⑤玉川
（E組）①中大付②世田谷工③両国④東京実業
（F組）①府中②桜水商③城南④小岩
（G組）①農業②二商③広尾④東京学芸大付属
（H組）①関東②京橋商③三商④鷺宮⑤帝京商

「女子」
（A組）①桜水商②白鷗③二階堂④墨田川⑤玉川
（B組）①佼成②二商③井草④小岩⑤明正
（C組）①神代②両国③菊華④五商⑤志村
（D組）①小平②府中③園芸④北多摩⑤四谷

神代（男）勝つ

◇第16回全国高校選手権東京都予選

「男子」
▽準々決勝
関東　19—18　墨田川
中大付　17—16　農業
桜水商　11—7　府中
神代　22—9　世田谷工

▽準決勝
中大付　15—9　関東
神代　23—7　桜水商

▽決勝
神代　18—8　中大付

「女子」
▽準々決勝
神代　21—2　井草
佼成　14—6　二階堂
小岩　16—2　菊華
桜水商　13—6　両国

▽準決勝
神代　10—6　佼成
桜水商　8—3　小岩

▽決勝
桜水商　11—10　神代

この結果、男子は明星、神代、中大付、女子は桜水商、神代が全国大会に出場する。

明星（男）、神代（女）勝つ

◇関東高校選手権東京都予選

「男子」
▽決勝トーナメント1回戦
明星　32—11　農業
府中　24—9　墨田川
関東　20—10　早大学院
神代　16—11　中大付

▽準決勝
明星　43—13　府中
関東　17—12　神代

▽3位決定戦
神代　27—11　府中

▽決勝
明星　30—12　関東

「女子」
▽決勝トーナメント1回戦
桜水商　15—13　二商
小平　14—9　両国
神代　12—9　白鷗
佼成　11—5　府中

▽準決勝
桜水商　14—9　小平
神代　9—4　佼成

▽3位決定戦
小平　14—6　佼成

▽決戦
神代　7—6　桜水商

地方だより

三菱重工が3連勝

◆愛知県実業団夏季リーグは6月16日から名古屋・金山体育館に7チームが参加して開かれ、三菱重工がすぐれた攻撃力で快勝。昨秋いらい3シーズン連続、通算7回目（愛知県実業団選手権時代を含む）の優勝を飾った。

大同製鋼 30—19 タヨシ産業
東海製鉄 32—12 ブラザー工業
三菱重工 36—18 中部電力
大同製鋼 25—14 中部電力
日本碍子 22—20 ブラザー工業
三菱重工 33—19 東海製鉄
日本碍子 19—18 中部電力
三菱重工 35—9 タヨシ産業
大同製鋼 37—20 ブラザー工業
三菱重工 42—5 ブラザー工業
東海製鉄 19（分）19 中部電力
日本碍子 15—13 タヨシ産業
三菱重工 18—13 日本碍子
タヨシ産業 19—11 ブラザー工業
大同製鋼 25—19 東海製鉄
東海製鉄 16—14 タヨシ産業
大同製鋼 21—15 日本碍子
中部電力 20—12 ブラザー工業
タヨシ産業 18—14 中部電力
日本碍子 21—16 東海製鉄
三菱重工 25—15 大同製鋼

【順位】①三菱重工6戦全勝②大同製鋼5勝1敗③日本碍子4勝2敗④東海製鉄3勝2敗1引き分け⑤タヨシ産業2勝4敗⑥中部電力1勝4敗1引き分け⑦ブラザー工業6戦6敗

得	【三菱】		【大同】	得
0	早川忠	GK	山田	0
0	長谷川	FP	青山	7
3	塚本		加藤	0
8	北野		広森	0
10	深谷		西村	3
0	早川三		戸谷	3
4	神谷		加藤	0
0	大場		牧田	1
0	荒木		伊藤	0
0	平子		松浦	1
25	(2)	7MT	(0)	15

愛エク、桜丘会に善戦

◆名古屋市春季選手権（5月9、16日・名古屋）

▽一般男子準決勝
愛工ク 18—11 三菱重工
桜丘会 24—8 教員ク

▽同決勝
桜丘会 15（6—8、7—4）12 愛工ク

▽高校男子決勝
桜台 18（10—7、8—5）12 名城大附属

富山、全部門を制す

◆第12回北陸3県総合体育大会ハンドボール競技（6月20日、氷見市）

▽一般男子（リーグ）
富山（氷見ク）30—17 石川（県工ク）
石川 19—12 福井（福商OB）
富山 31—9 福井
富山（氷見ク）の優勝

▽一般女子決勝
富山（県富女OG）13—8 福井（福商OG）

▽高校男子（リーグ）
富山（氷見）29—10 石川（金沢商）
石川 20—15 福井（藤島）
富山 20—10 福井
富山（氷見高）の優勝

▽高校女子（リーグ）
福井（福井商）10—10（引分）石川（小松市女）
富山（高岡女）9—5 石川
富山 23—8 福井
富山（高岡女高）の優勝

桜台らが愛知代表に

◆第16回全国高校愛知県予選（6月20、27日・名古屋）

▽男子決勝リーグ
桜台 23—12 中京商
名城大付 43—7 愛知商
中京商 40—7 愛知商
桜台 21—12 名城大付
桜台 36—9 愛知商
名城大付 17—15 中京商

この結果全勝の桜台と2勝の名城大学附属が本大会に出場

▽女子決勝リーグ
半田 13—7 一宮
名女商 12—4 稲沢
稲沢 9—7 一宮
半田 11—10 名女商
半田 7（分）7 稲沢
名女商 7（分）7 一宮

この結果2勝の半田と1勝1敗1分ながら得点率で稲沢を上回る名古屋女商が本大会に出場。

静岡城北高も

◆第16回全国高校静岡県予選（6月27日、静岡）

▽男子決勝
清水商 9（5—6、4—2）8 静岡東

▽女子決勝
静岡城北 14（7—3、7—4）7 沼津女商

三重は四日市と津女子

◆第16回全国高校三重県予選（6月13日、津）

▽男子決勝
四日市工 14—11 津

▽女子決勝
津女子 7—1 松阪女子

◆第16回五大都市体育大会京都市予選（5月30日、6月6日、平安高、京大）

▽男子1回戦
柳本製作所 21—9 ブルースカイ
白線社 27—25 西友会
球志会 17—14 平安クラブ
教員クラブ 32—15 京都信用金庫

▽準決勝
柳本製作所 25—24 白線社
教員クラブ 23—22 球志会

▽決勝
柳本製作所 34—13 教員クラブ

中京商敗れる

◇第16回全国高校選手権愛知県予選（6月13、20、27日、一宮高ほか）

▽男子決勝リーグ
桜台 33－12 中京商
名城大付 43－7 愛知商
中京商 40－7 愛知商
桜台 21－12 名城大付
桜台 36－9 愛知商
名城大付 17－15 中京商

▽女子決勝リーグ
半田 13－7 一宮
名女商 12－4 稲沢
稲沢 9－7 一宮
半田 11－10 名女商
半田 7－7 稲沢（引き分け）
名女商 7－7 一宮（引き分け）

この結果、男子は桜台、名城大付、女子は半田、名女商が全国大会に出場する。

広島商大優勝

◇第15回西部日本学生一手権大会（6月12～13日、岡山大）

▽1回戦
岡山大 25（16－5、9－6）11 熊本商大

▽準々決勝
西南学院 44（19－3、25－10）13 近大
山口大 23（7－5、16－8）13 九大
広島大 37（14－8、23－10）18 鹿児島大
広島商大 28（16－11、12－12）23 岡山大

▽準決勝
広島商大 17（7－5、10－5）10 山口大
広島大 23（13－3、10－10）13 西南学院

▽3位決定戦
山口大 23（12－7、11－12）19 西南学院

▽決勝
広島商大 24（10－8、14－7）15 広島大

徳山クラブ勝つ

◇第17回全日本総合選手権中国予選（6月27日、岡山大）

▽決勝
徳山ク（山口） 23（10－5、13－8）13 天城高OB会（岡山）

徳山クラブが中国代表と決定。

三菱レイヨン大竹が優勝

◇広島県一般男子春季選手権大会（6月26、27、呉市体育館）

▽1回戦
三菱レイヨン大竹 28－8 近大呉工学科

▽準々決勝
広島商大 18－14 全広島商大
日新製鋼 13－5 中国工業
淀川製鋼 不戦勝 双葉ク
三菱レイヨン大竹 19－16 広島大

▽準決勝
広島商大 23－13 日新製鋼
三菱レイヨン大竹 28－11 淀川製鋼

▽決勝
三菱レイヨン大竹 15（8－4、7－7）11 広島商大

◇第16回福島県春季選手権（5月15、16日、郡山市安積高体育館）

▽高校男子リーグ
本宮 12－10 若松一
安積 29－17 聖光学院
安積 29－10 若松一
聖光学院 28－15 本宮
聖光学院 29－8 若松一
安積 24－3 本宮

①安積3勝②聖光学院2勝1敗③本宮1勝2敗④若松一3敗

▽高校女子準決勝
梁川 21－8 若松一
小高農 24－6 緑が丘

▽同決勝
小高農 14（8－6、6－4）10 梁川

▽一般男子リーグ
福島教員 38－13 日大二工
福島教員 22－18 安積ク
安積ク 24－9 日大二ク

①福島教員2勝②安積ク③日大二工

訂正と補則

19号掲載の昭和26年関東学生春季リーグ戦スコアのうち、不明の2試合が東京の石井喜八氏からのご連絡でわかりました。

立大 10－6 日体大
日体大 10－8 教大

また同氏により同リーグ次の2試合のスコアの誤りがただされました。石井氏に紙上からお礼申し上げます。

▽日体大 11－7 法大とあるのは「12－8」。
▽日体大 11－7 早大とあるのは「6－1」。

吉田真一郎氏死去

吉田真一郎氏（全日本学生連盟理事長吉田正次郎氏実父）は病気療養中のところ、7月15日死去した。69歳。葬儀は18日東京都台東区浅草橋二ノ二八の自宅で行なわれ、日本協会から高嶋理事長らが参列した。

編集後記

○…インター・カレッジは芝浦工大がライバル立大を破っての2連勝、通算7度目のペナントを握った。8回の大会のうち、7回までタイトルを獲得したのはりっぱ。〝芝浦工大〟といえば、〝ハンドボール〟がとび出すほど〟だから…。三浦元秀先生も「これでリーグ戦のアダ討ちができてうれしい」と大喜び。この大会から女子の部が新設され、日体大が高松宮妃杯を獲得した。男子は4位なので女子は大威張りだろう。

○…今秋の女子世界選手権大会の代表選手がまだ決まらない。私たちをヤキモキさせている。技術部案は各実業団チームの監督に選手を推薦させる方法をとったが、聞くところによると大洋デパートしか集まらなかったとか。予定の32人を大きく下回ったため、理事長一任という形になった。近く理事長が各実業団の社長さんにお願いにあがるそうだが、なんとか一日も早く決ってほしいものだ。なにしろ相手はチェコスロバキア・チーム。かなり強いチームだ。みんなで力を合わせて代表選手の強化合宿をやってほしい。

○…来年は日本男女チームのソ連、中国チームの来日、そして明後年は男子7人制の世界選手権大会がある。中国チームの来日は別として、ソ連遠征、世界選手権大会の日本代表チームはそれぞれ決めておかないと心配。少なくとも一年前から準備しないとダメだと思う。夏の全日本総合、12月の全日本総合室内のチャンピオン・チームを代表チームにしたらどんなものだろう。（ふぐ）

◇　◇　◇

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第二十四号
昭和四十年六月七日第三種郵便物認可
昭和四十年七月二十日印刷
昭和四十年七月二十五日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南町二五
電話東京(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 高嶋冽
定価百三十円
(〒)二十円